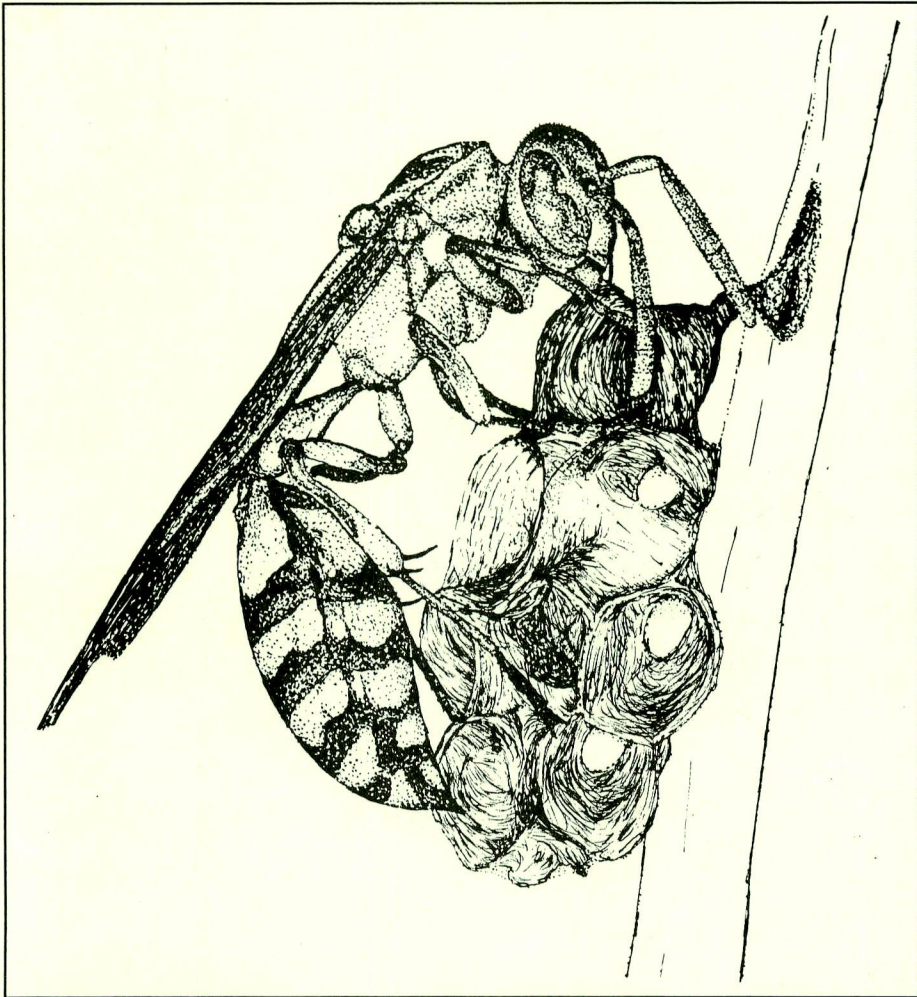


寄せ蛾記 92

1999年9月18日



埼玉昆虫談話会

表紙の昆虫

◆ヒメホソアシナガバチ *Parapolybia varia*

埼玉県内には本種とムモンホソアシナガバチ *P. indica* の2種のホソアシナガバチが生息しています。弱々しく見えるハチですが、巣を防御するときの行動は決して弱々しくはありません。両種とも木の枝や葉裏に営巣することが多く、初期巣を発見することは困難です。

文とイラスト：巢瀬 司

土屋義彦埼玉県知事さまへ

拝啓

今年も県の蝶ミドリシジミの季節を迎えました。知事さまには相変らず御壮健のことと拝察し、お喜び申し上げます。また先般は勲一等旭日大綬章の御受章おめでとうございます。

さて埼玉昆虫談話会では創立30周年を記念に埼玉県昆虫誌を刊行致しました。いわば埼玉県における昆虫の戸籍台帳です。そこには9360種という、とてつもない種類の昆虫が生息していることが明らかになりました。この結果をもたらししたのは、県内各地に住んでいる昆虫好きな人達です。彼等は小規模ながらもコレクションとして昆虫標本を持っています。なかには個人博物館を開設しても十分展示に耐えうるような沢山の標本を所有している者もいます。しかし、いずれも個人の趣味で集められていますので、その個人の没後は散逸してしまうか、虫に喰われて消滅してしまうことが多いと考えられます。これら個人所有の標本のなかには、国内で唯一の標本という貴重なものもあります。これら貴重な標本が失われることは、非常に残念でありますとともに、大げさに言えば人類の財産の損失であります。そこで、これらを収蔵できる収蔵庫の充実した博物館が欲しいのです。

また標本は大切な調査記録であるばかりでなく、未来の検討対象、研究対象として大きな意味を持っています。採集された標本そのものも貴重な調査結果ですが、将来、現在の技術あるいは学術水準では考えられないような方向に研究が発展する可能性もあります。例えば新しい種として分類されたり、分子レベルでの分類法の対象とされたりすることもあるでしょう。考古学の発掘資料などは、資料そのものが成果として大切に保存されます。野外で容易に捕獲可能だからといって、その状態がいつまで続くかわかりません。特にかっては想像もできなかったような内分泌かくらん物質などの発見により、種の存続が危うくなる場合もでてくるであります。また開発行為により絶滅あるいは絶滅に瀕する種もありません。そのような種の標本を残しておくことは、現在生きている人間の責務でさえあると思うのです。

また研究の結果、その地域特有な亜種や地域個体群が発見されるとも限りません。折角採集し、記録に留めた個体は犠牲にした命という点でも、より沢山の情報をその標本から求める努力をする必要があります。

標本を保存する場合も、どの分類群が大切であるか、ないかは現在決められるとは限りません。標本はできるだけ多くの対象について、大切に保存するための努力をする必要があるのです。膨大な量になり、資料は集積する一方で、全部の保管は不可能だと考えられやすいのですが、実際にはそれほどの量になるとは思えません。

標本といっても多様であります。さく葉標本、剥製標本、液浸標本、乾燥標本、プレパレート標本など多彩です。従って、その保存法も多岐にわたります。標本の管理、保

存のための専門家を配置させて、常に自然資料を蓄積し保存すると共に、展示を有機的に展開し、県民の役に立つような方策を考えていただきたいのです。

県民が野外で観察した生物の名前を知りたいと思ったとき、その実物標本が手近にあり、それと対照することにより種の名前がわかることは、これからの環境教育に絶対必要であります。種の名前は二の次だという指導者がいますが、それはその指導者が動植物名について詳しく知らないだけのことであります。種の名前が特定できてこそ、その種の行動、生態などもよく理解でき、観察、記録されたものについては後学の者の利用が可能になります。種の名前をあやふやなままにしている、記録そのものがみじんの価値もありません。事実、過去に種を混同したまま生態観察がなされたため、その報告がみじんの価値もないものになった例があります。

種の名前を知り、そのことで対象に親しみが湧きます。それは少年や少女だけでなく年配者にとっても同じことであります。名前を知ってその生きものをより詳しく知ろうとします。そこに自然発生的に学ぼうとする意欲が湧いてくる筈です。与えられるだけでない本物の生涯教育の取組みが芽生えてきます。それを手助けする機関職員だけでなく、有識者のボランティアを配置することにより、有機的な発展が可能になります。青少年の育成とともに、今後ますます高齢化が進むでしょうから、生涯教育は生きがいの形成の面でも絶対必要であります。実物標本を完備した、いわば誰でもが検索が可能な実物標本による図鑑ともいべき博物館は、ぜひとも身近な場所に必要だと信ずるのであります。

埼玉県にはこのような目的で現在、長瀨町に県立自然史博物館が存在します。しかし、この博物館の致命的な欠点はその立地にあります。何とんでも人口が集中しているのは県南地域であり、自然への愛着も自然が遠ざかったことに対する反動として興味をもつ場合が多いのです。やはり利用度の高い県南地域にこのような設備を設けることが、環境教育だけでなく県民福祉の上でも是非必要だと思います。

県立自然史博物館のもう一つの欠点はその規模の小さいことにあります。昨今、神奈川、千葉、茨城、群馬等で完成した自然史博物館の規模はみな壮大であります。展示スペースだけでなく収蔵庫の規模が大きく、バリアフリーに閲覧可能な博物館が県民利用度の高い県南地域に是非欲しいのです。財政を緊縮している今日はとても難しいでしょうが、いずれ経済が好転し予算にゆとりが出来た時、お考えいただきたいと伏してお願ひ申し上げます。

うっとうしい日々が続くようになります。どうかお身体に十分お気を付け下さって、よりよい県政のため御努力下さいますようお願い申し上げます。

平成11年6月吉日

埼玉昆虫談話会
会長 牧林 功

埼玉県都幾川産ホンサナエ幼虫 の背棘・側棘数の変異について

松木和雄・喜多英人

1. はじめに

筆者の一人・松木は、ホンサナエ幼虫の外部形態中、腹部の背棘数と側棘数について、朝比奈(1957)、広瀬(1962)、石田・石田(1985)、石田・他(1988)、石田(1996)などの諸文献で不一致が見られることに気づき、本種の背棘・側棘数について全国レベルで数量的にチェックする必要を感じて、諸氏のご協力を仰ぎながら、各地の羽化殻標本の検討を順次行なってきた(松木・伊藤, 1997; 松木・井上, 1997; 松木・関根, 1997; 松木・中原, 1997; 松木・吉田, 1997; 松木・斎藤, 1998; 松木, 1998; 松木・相田, 1998; 松木・祖田, 1999; 松木・大浜, 1999)。

その結果、現在までに次のような地域差があることが判明した。

① 背棘数

- (a) 例外なく第8～9腹節…佐賀県佐賀市産(松木・中原, 1997)、徳島県徳島市産(松木・吉田, 1997)、島根県宍道湖産(松木・大浜, 1999)、鳥取県米子市産(松木・祖田, 1999)、岐阜県岐阜市産(松木・相田, 1998)、京都府宇治市産(松木・井上, 1997)、神奈川県箱根町芦ノ湖産(松木・関根, 1997; 松木, 1998)。
- (b) 大半が第9腹節のみで、一部の個体で第8～9腹節または無し…東京都多摩川産(松木・伊藤, 1997)、茨城県久慈郡産(松木・斎藤, 1998)。

② 側棘数

- (a) 全ての個体が第6～9腹節…徳島県徳島市産(松木・吉田, 1997)、鳥取県米子市産(松木・祖田, 1999)、岐阜県岐阜市産(松木・相田, 1998)。
- (b) 第6～9腹節にある個体が大半で、一部第7～9腹節…佐賀県佐賀市産(松木・中原, 1997)、島根県宍道湖産(松木・大浜, 1999)、京都府宇治市産(松木・井上, 1997)、神奈川県箱根町芦ノ湖産(松木・関根, 1997; 松木, 1998)。
- (c) 第7～9腹節にある個体が大半で、一部第6～9腹節…茨城県久慈郡産(松木・斎藤, 1998)。
- (d) 全ての個体が第7～9腹節…東京都多摩川産(松木・伊藤, 1997)。

今回は、筆者の一人・喜多が埼玉県都幾川で得た羽化殻について検討したので埼玉県の事例として報告する。この小文をまとめるにあたり、羽化殻採集にご協力いただいた加納一信、小林文雄の両氏に厚く御礼申し上げる。

2. 研究標本

Gomphus postocularis SELYS, 1869 ホンサナエ

埼玉県東松山市上唐子都幾川1羽化殻(1♀) 7 May 1995 喜多英人採集
(MC: 5439-0228)

埼玉県東松山市下唐子都幾川4羽化殻(1♂3♀) 30 Apr 1996 喜多英人採集
(MC: 5439-0229)

埼玉県東松山市嵐山町都幾川1羽化殻(1♂) 4 May 1996 喜多英人採集
(MC: 5439-0225)

埼玉県東松山市上唐子都幾川61羽化殻(27♂34♀) 26 Apr 1998 喜多英人採集
(MC: 5439-0228)

以上の67個体(29♂38♀)。

3. 研究方法

羽化殻には多くの泥が付着していたので、腹部背面・腹面を中心に、絵筆を使って慎重に泥を落とす作業を数回繰り返した。清掃後の標本の観察は、全て双眼実体顕微鏡を用いて行なった。観察箇所は腹部の背棘と側棘。なお、雌雄の判定は、松木・伊藤(1997)らと同様に腹部腹面の生殖弁の有無や♂のgenitaliaの隆起の有無、肛上片の形などを用いて行なった。

表 1. 都幾川産ホンサナエ幼虫の背棘数、側棘数

No.	性別	背棘	左側棘	右側棘	産地	採集日	採集者
1	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	東松山市上唐子	7.V.1995	喜多英人
2	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	東松山市下唐子	30.IV.1996	喜多英人
3	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
4	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
5	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
6	♂	第8-9節	第7-9節	第7-9節	東松山市嵐山町	4.V.1996	喜多英人
7	♂	第8-9節	第7-9節	第7-9節	東松山市上唐子	26.IV.1998	喜多英人
8	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
9	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
10	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
11	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
12	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
13	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
14	♂	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
15	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
16	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
17	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
18	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
19	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
20	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
21	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
22	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
23	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
24	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
25	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
26	♂	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
27	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
28	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
29	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
30	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
31	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
32	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
33	♂	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
34	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
35	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
36	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
37	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
38	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
39	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
40	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
41	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
42	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
43	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
44	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
45	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
46	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
47	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
48	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
49	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
50	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
51	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
52	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
53	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
54	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
55	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
56	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
57	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
58	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
59	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
60	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
61	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
62	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
63	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
64	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
65	♀	第8-9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
66	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "
67	♀	第9節	第7-9節	第7-9節	" "	" "	" "

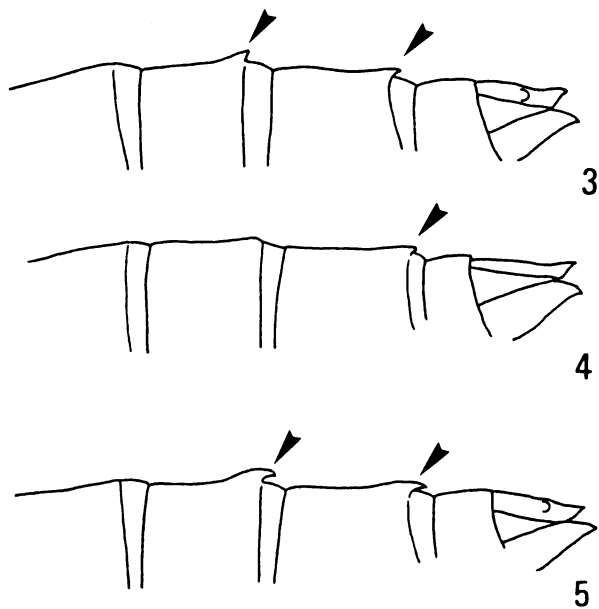
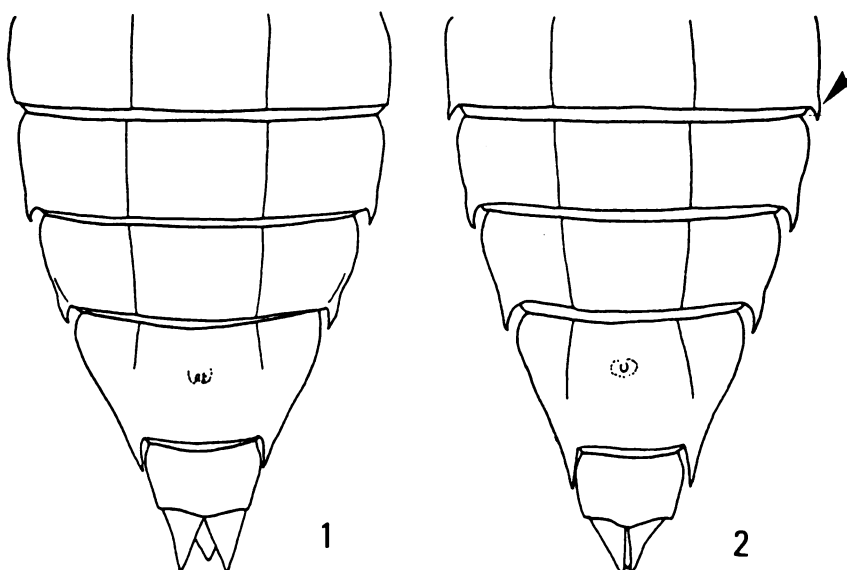


図1～2 ホンサナエの側棘（腹部腹面）

1：第7～9節に側棘のある個体

2：第6～9節に側棘のある個体

図3～5 ホンサナエの背棘（腹部末端左側面）

3：第8～9節に背棘のある個体（第8節のものは三角状突起）

4：第9節にのみ背棘のある個体

5：第8～9節に背棘のある個体（第8節のものは鉤状突起）

4. 研究結果

1) 背棘数の変異

埼玉県都幾川産ホンサナエでは、第9腹節にのみ背棘があるものは、表1のように67例中53例(約79.10%)みられた。第9腹節だけでなく第8腹節にも背棘がある個体は、67例中11例(約20.89%)みられた。背棘を全く欠く個体はみられなかった。それぞれの背棘数と雌雄との特別な関係はみられなかった。

なお、第8～9腹節の背棘は、これまでに調べた神奈川・京都・徳島・島根・鳥取・岐阜・佐賀産などの個体(図5)と比較すると小型で直線的で、東京都や茨城県産と同様であった(図3)。

2) 側棘数の変異

側棘は、表1のように左右とも第7～9腹節にあるものが67例中67例で100%。これは、多摩川産(東京都)と同様であった(図1)。

5. まとめ

観察結果から、埼玉県都幾川産ホンサナエ幼虫の背棘については第9腹節にのみ背棘があるもの(図4)が多いが、第8腹節にも背棘がある個体があることが分かった。また、側棘は、第6腹節にある個体はみられなかった。都幾川産については、『腹部の側棘は7～9節』という朝比奈(1957)らの記述に合致することになる。

今後も諸兄のご協力を仰ぎ、関東地方の他県や東北地方、北海道などの個体を研究していきたいと考えている。

○参考文献

1. 朝比奈 正二郎(1957)日本の蜻蛉資料(10). 新昆蟲, 10(4): 56-62.
2. 石田 勝義(1996)日本産トンボ目幼虫検索図説. 447pp.北海道大学図書刊行会.
3. 石田 昇三・石田 勝義(1985)2. 蜻蛉目. 川合禎次編 日本産水生昆虫検索図説: 33-124. 東海大学出版会.
4. 石田 昇三・石田 勝義・小島 圭三・杉村 光俊(1988)日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 72pls+105 figs+140pp. 東海大学出版会.
5. 松木 和雄(1998)箱根町芦ノ湖産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数の変異について. 房総の昆虫, (20): 21-24.
6. 松木 和雄・相田 正人(1998)岐阜市長良川産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について. Gracile, (60): 4-5.
7. 松木 和雄・伊藤 淳(1997)多摩川産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について. 房総の昆虫, (19): 5-8.
8. 松木 和雄・井上 清(1997)京都府宇治市産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について. Gracile, (58): 3-7.
9. 松木 和雄・大浜 祥治(1999)島根県宍道湖産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘について. すかしば, (47): 23-26.
10. 松木 和雄・斉藤 洋一(1998)茨城県産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘の変異について. おけら, (60): 35-41.
11. 松木 和雄・関根 和男(1997)神奈川県産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘の変異について. 月刊むし, (322): 38.
12. 松木 和雄・祖田 周(1999)鳥取県米子市産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘について. すかしば, (47): 27-28.
13. 松木 和雄・中原 正登(1997)佐賀県佐賀市産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘の変異について. 佐賀の昆虫, (31): 35-38.
14. 松木 和雄・吉田 一夫(1997)徳島県徳島市産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について. Gracile, (58): 8-13.
15. 広瀬 欽一(1962)第2章蜻蛉目. 津田松苗編水生昆虫学. 25-70.北隆館.

(まつき かずお 〒274-0822 船橋市飯山満町3-1575-14)

(きた ひでと 〒203-0033 東久留米市滝山6-2-15-308)

大滝村雁坂峠とその周辺の甲虫類 (第1報)

The coleopterous fauna of Karisaka Pass and its surrounding area,
Ohtaki Village, Saitama Prefecture, central Japan (Primary report)

鎌倉 正人

◎緒言

埼玉県の屋根をなす奥秩父連峰は、日本のほぼ中央に位置し、東西約50kmにわたる褶曲山地である。殊に西部の山梨・長野県境は標高2500mを超え、山頂部はハイマツ林や風衝草原におおわれ、わが国では富士山・日本アルプス・ハケ岳・白山以外にはない貴重な高度を持つ。埼玉県側の甲武信岳以東は、いわゆる高山植生をほとんど欠くこと、稜線までのアプローチが長く到達に労力を要することもあってか、その甲虫相は充分調査されてきたとはいえない。最近刊行された埼玉県昆虫誌 IIIでは、亜高山帯を中心に生息し、山梨・長野方面では比較的普通に見られる種に、記録が無いものが多い。筆者は1998年に数回、奥秩父のほぼ中央に位置する雁坂峠を訪れ、トラップ採集および見つけ採り採集を行い、県下では未知あるいは稀な種を少なからず得ることができたので、ここに記録しておきたい。

◎雁坂峠の位置と自然環境 (図1A~C参照)

山岳地における生物の分布を考える時、背後の山の標高は重要である。最終氷期やヒブシサーマル期における気温の変動により、生物の垂直方向の移動が生じ、ある種は絶滅し、また別の種は生き残ったと推測されている。雁坂峠の東には、遠く雲取山まで2000~2100m級の山が連なっているが、2200~2400m級の山は、ここをもって終わりとなる。従って、この峠より東に分布を延ばせなかった高地性の種類がいても驚くにはあたらない。

雁坂峠の山梨県側は、草本植物をまじえた明るい笹原で、その下はまばらにカラマツが生えている。総じて針葉樹林は発達しておらず、久度沢沿いの斜面には、ミズナラを主体とする発達した広葉樹林が見られる。一方、埼玉県側はほとんどが森林におおわれ、午後は霧が出やすく、尾根筋といえども湿潤である。川又の集落の付近は杉の造林地で、雁坂峠付近でも所によって標高1900m位までカラマツが植えられていて驚くこともある。しかし原生林の残存量は豊かであり、突出峠や樺小屋の周辺は巨木の多い見事な林である。稜線はシラビソやコメツガの薄暗い針葉樹林が多く、所によってはダケカンバが生えている。また黒岩尾根の下部や、国道付近の黒文字橋あたりには、発達したブナ林が見られる。

雁坂峠に入るには3つのルートがあるが、国道140号線のトンネル開通に伴い、登山口付近の様相が大きく変化していることに注意されたい。1つは山梨県三富村から登るもので、トンネル入口付近に新しく建設された林道をつめ、かつての久度沢沿いの登山路に入り、最短時間で到着できる。埼玉側(大滝村側)は2つの道がある。1つは、突出峠をへて樺小屋という新設の避難小屋を経由し雁坂嶺の山腹を巻いて登るルート、もう1つは、黒岩尾根の東側に廻りこんで高度を上げ、やがて稜線に出るルートである。第3のコースは1998年現在では国土地理院の地形図に載っていない。なお、埼玉県側は東京大学の秩父演習林に含まれる所が多い。

◎化学トラップとピットホールトラップ

当地の森林環境は多様であるが、あえて難点を挙げるなら、それは登山道の周辺に甲虫の訪れる花が少ないことがあげられる。また、伐採もほとんど行われておらず、林は暗く、食材性甲虫の採集は容易ではない。そこで、林内を飛翔する昆虫類を捕獲するため、岩田・楨原(1994)によるサンケイ化学製の湿式衝突板トラップを使用した。豆焼沢源頭部の滝および樺小屋の付近にそれぞれ、アカネコール(メチルフェニルアセテート剤/後述の採集品目録中でMPAと略記)付の白色

図 1 A
調査地概念図
(略号は本文参照)



図 1 B
山梨県側雁坂トンネル入口付近

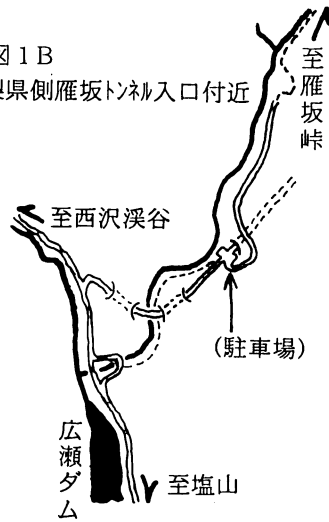
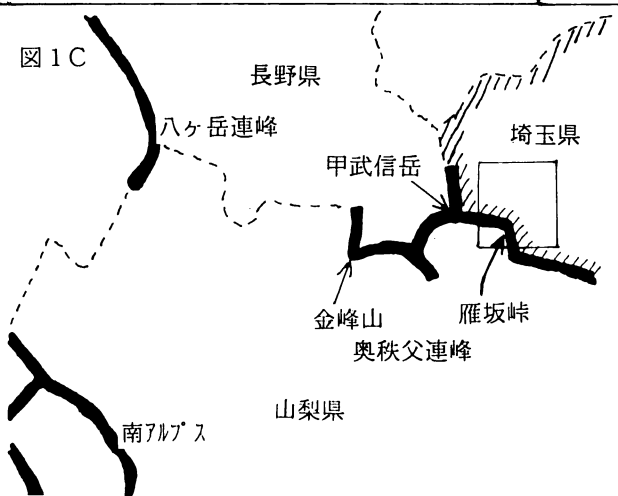


図 1 C



トラップ1基とマダラコール(ピネン油+エタノール剤/目録中でPNと略記)付の黒色トラップ1基を設置した。前者は花の香りの類似物質、後者は針葉樹の衰弱木から発生する成分とされている。期間は6月5日~8月3日までとした。捕獲バケツには中性洗剤とソルビン酸を使用した。

地表徘徊性甲虫には夜行性のものも多く、これらの調査は、トラップによって定点観測するのが適切と思われる。そこで、豆焼沢源頭部の滝の下と、その支流の枯れ沢に、地表性甲虫を捕獲するための紙コップ製ピットホールトラップを設置した(目録中でPFと略記)。個数は、前者に25個、後者に20個とし、期間は5月27日から7月15日までとした。糖蜜やさなぎ粉等の餌は、長期設置による保存性の低下を避けるためあえて入れなかった。

トラップに捕捉された昆虫は、6月5日、15日、7月1日、15日、8月3日に回収した。ピットホールトラップの方は、設置期間の長さから、腐敗や共食い等により著しく破損したものも少なくなく、必ずしも全数を回収していない。また、化学トラップで得られた双翅目は本会の玉木長寿氏に、膜翅目は南部敏明氏に進呈した。この内容については別途公表されるものと思われる。

図2

沢すじの林内につるされた
サンケイ式化学トラップ

豆焼沢源頭部にて



◎採集品目録

採集地はすべて埼玉県大滝村。すべて1998年鎌倉正人採集。以下これを略す。参考までに地点のおよその標高を記した。同一地名が続くときは、「同地」と記した。標本は原則として筆者が保管しているが、一部は同定を依頼した研究者の方々に進呈した。# に続く番号は環境庁の自然環境保全基礎調査で使用しているメッシュコードである。

オサムシ科 (Carabidae)

*を付した種は豊田浩二氏同定。

チブホソクロナガオサムシ *Leptocarabus arboreus ogurai* (Ishikawa)

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 (alt. 2000m) #5338-66-73

5月27日~6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

1♂1♀, 同地 6月5日~15日 PF(滝付近のトラップ)

2♀, 同地 6月5日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

1♂2♀, 同地 6月15日~7月1日 PF(滝付近のトラップ)

1♀, 同地 6月15日~7月1日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

2♂, 同地 7月1日~15日 PF(滝付近のトラップ)

ここには雁坂小屋の水源があり、水源付近は、登山道の山側に滝があって水が道を横切って流れており、暗く湿潤な環境である。一方、その北には枯れ沢があり、こちらは常に日光が差し込む明るい環境である。両者を上記のごとく分けて記した。本種と次種は、奥秩父の高地では比較的普通に見られるオサムシである。

オクタマアルマンオサムシ *L. harmandi okutamaensis* (Ishikawa)

- 1♂1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日~6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)
1♂2♀, 同地 6月5日~15日 PF(滝付近のトラップ)

アオキノカワゴミムシ *Leistus subaeneus* Bates (図3)

- 1頭, 雁坂峠 (alt. 2050m) #5338-66-63 8月3日
茸が生えた針葉樹の倒木をビーティングして得た。本州中部の亜高山帯以上に生息し、筆者も奥秩父では大弛峠や金峰山で採集しているが、埼玉からは記録がなかった。

ミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria chalceola* (Bates)

- 1頭, 雁坂峠 7月1日

ミヤマメダカゴミムシ *Notiophilus impressifrons* Morawitz

- 1頭, 黒文字橋 (alt. 950m) #5338-76-06 9月23日

マルガタナガゴミムシ *Pterostichus subovatus* (Motschulsky)

- 1♂, 雁坂峠 7月1日

ミヤマクロナガゴミムシ *P. karasawai* Tanaka*

- 2♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日
ガレ場の石下より得た。

ヤツオオナガゴミムシ *P. mucronatus* Straneo

- 1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日
2♂, 同地 5月27日~6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)
2♂, 同地 6月15日~7月1日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)
2♂3♀, 同地 7月1日~15日 PF(滝付近のトラップ)
2♂, 同地 7月1日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

ハラトゲナガゴミムシ *P. spiculifer* Bates*

- 1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)
1♀, 同地 6月15日~7月1日 PF(滝付近のトラップ)

ミヤマナガゴミムシ (関東山地亜種) *P. rhanis kantous* Tanaka*

- 2♂1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日~6月5日 PF(滝付近のトラップ)
2♂1♀, 同地 6月5日~15日 PF(滝付近のトラップ)
1♂, 同地 7月1日~15日 PF(滝付近のトラップ)

ハネアカナガゴミムシ *P. brunneipennis* Straneo* (図4)

- 1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日~6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)
1♀, 同地 6月5日~15日 PF(滝付近のトラップ)
1♂, 同地 7月1日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

八ヶ岳と奥秩父西部の高地(長野県川上村・山梨県牧丘町等)および南アルプスに産し(笠原, 1984; 早川, 1996), 埼玉からは記録がなかった。奥秩父産は八ヶ岳産と共に原名亜種に属する。近似種のミヤマとハネアカが同所的にトラップされたことは、両者の独立性を示唆している。

ヤマトクロヒラタゴミムシ *Platynus subovatus* (Putzeys)

- 1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) (alt. 1700m) #5338-66-94 7月1日~15日 MPA
信州の山間部では普通だが、埼玉県での記録は少ない。豊田(1998)は両神山から採集している。

ツヤモリヒラタゴミムシ *Colpodes xestus* (Bates)

- 1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA
1♀, 同地 6月15日~7月1日 PF(滝付近のトラップ)

1♂1♀, 雁坂峠 8月3日

ハコネモリヒラタゴミムシ *C. hakonus* Harold

1♀, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月1日~15日 PN

コホソヒラタゴミムシ *Pristosia colpodoides* (Bates)

2♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日

1♀, 同地 6月15日~7月1日 PN

ミヤマゴモクムシ *Harpalus fuliginosus* (Duftschmidt) (図5)

1♂, 雁坂峠 7月1日

草原脇の石下から得た。高地性で埼玉未記録種。

ホソアトキリゴミムシ *Dromius prolixus* Bates

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

1頭, 同地 6月15日~7月1日 PN

1頭, 同地 7月1日~15日 MPA

1頭, 同地 7月15日~8月3日 MPA

2頭, 同地 7月15日~8月3日 PN

モリヒラタ・アトキリ等の, 樹上生活するゴミムシ類は, 化学トラップにしばしば誘引される。

ゲンゴロウ科 (Dytiscidae)

マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp

1頭, 雁坂小屋 (alt. 1950m) #5338-66-63 7月1日

ドラム缶に溜まった水中より得た。普通種だが, 小屋の周囲はもとより, 奥秩父の高山には本種が安定して生息できる止水域は乏しい。本種の移動力の強さを示唆する記録である。

シデムシ科 (Silphidae)

ヒメクロシデムシ *Nicrophorus tenuipes* Lewis

2頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日~15日 PF(滝付近のトラップ)

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) (alt. 1700m) 7月15日~8月3日 MPA

本州では高地性の種だが, さらに高山性のホンドリロオビモンシデムシ・ツノグロモンシデムシの2種は今回は得られなかった。シデムシの垂直分布については, 北アルプスでの詳細な調査 (Kamimura, Nakane, Koyama, 1964) があり, 秋季になるとより低所に移動することが知られているので, 季節によっては容易に得られるかもしれない。なおホンドリロオビは中津川から既に記録されている。

埼玉県昆虫誌 IIIに引用されているヒメクロシデムシの平野部の記録 (久喜市・狭山市など) は疑問であり, 再検討を要する。

マエモンシデムシ *N. maculifrons* Kraatz

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

ホソヒラタシデムシ *Silpha longicornis* Portevin

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日~6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

3頭, 同地 6月5日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

11頭, 同地 6月15日~7月1日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

中部地方以北の本州の山地に普通の種で, トラップにも多数落下する。

ウスイロオサシデムシ *Brachyloma curtum* Portevin

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA

2頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

ハネカクシ科 (Staphylinidae)

*を付した種は岸本年郎博士同定.

**を付した種は島田孝氏同定.

ホソスジデオキノコムシ *Ascaphium tibiale* Lewis

2頭, 黒文字橋 9月23日

セミゾヒラタハネカクシ *Siagonium nobile* Sharp*

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN
埼玉県未記録種.

キイロツヤシデムシモドキ *Camioleum loripes* Lewis

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA

1頭, 同地 7月1日~15日 PN

Eusphaleum shibatai Watanabe*

3頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日~15日

2頭, 同地 7月15日~8月3日 共にトラップ種別不詳
埼玉県未記録種.

オオキバハネカクシ *Oxporus japonicus* Sharp

1♀, 黒文字橋 9月23日

コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi* (Cameron)**

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月1日~15日 PN

2頭, 同地 7月15日~8月3日 PN

ルリコガシラハネカクシ *Philonthus cyanipennis* (Fabricius)

1頭, 黒文字橋 8月3日

茸が生えた立ち枯れより得た.

サビイロモンキハネカクシ *Ocypus dorsalis* Sharp**

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

1頭, 同地 6月15日~7月1日 PF(滝付近のトラップ)

1頭, 同地 7月1日~15日 PF(滝付近のトラップ)

チャイロツヤムネハネカクシ *Quedius adustus* Sharp*

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日~8月3日 PN

イブシツヤムネハネカクシ *Q. samuraicus* Bernhauer et Schubert*

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

コガシラツヤムネハネカクシ *Q. parviceps* Sharp*

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

6頭, 同地 7月1日~15日 MPA

ヒゲブトアリノスハネカクシ *Zyras cylindricornis* Dvorak*

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

1頭, 同地 6月15日~7月1日 PN

埼玉県未記録種.

コガネムシ科 (Scarabaeidae)

*を付した種は平沢伴明氏同定。

ニセソヒゲナガビロードコガネ *Serica nitididorsis opacidorsis* Nomura *

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 PN

1♂, 同地 7月15日～8月3日 PN

モモケビロードコガネ *S. trichofemorata* Nomura *

2♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月15日～8月3日 PN

埼玉未記録種。埼玉県昆虫誌 III (1998) の中で小堀は、県内から発見される可能性ありと述べている。

フウボビロードコガネ *S. foobowana* Sawada *

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 PN

ホンシュウビロードコガネ *S. karafutoensis honshuensis* Nomura *

2♂1♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月15日～8月3日 PN

6♂2♀, 同地 7月15日～8月3日 MPA

ヒダチャイロコガネ *Sericania hidana* Nijima et Kinoshita *

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 MPA

埼玉未記録種。平沢氏のご教示によれば、本種は中部地方の高標高地で得られるもので、木曾御岳ではよく見られるという。秩父周辺では南アルプス鳳凰山から記録されている(水野・細田, 1991)。

カミヤチャイロコガネ *S. kamiyai* Sawada *

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 PN

ビロードコガネ・チャイロコガネの類は、MPA剤よりPN剤に多くの種が誘引された。設置場所はほとんど同じであったが、これが偶然なのか、針葉樹と生態的に関連があるためなのかははっきりしないが、興味深い結果である。

アオアシナガハナムグリ *Gnorimus subopacus* Motschulsky

1頭, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN

山地性の種である。

コメツキムシ科 (Elateridae)

*を付した種は岸井尚博士同定。

ダンダラコメツキ *Diacanthous undosus* (Lewis)

1♀, 雁坂小屋 7月1日

針葉樹の薪から採集。高地に限定されている種で、埼玉県昆虫誌 III でも川又～雁坂峠の記録があるのみ。

ヒメアオツヤハダコメツキ *Mucromorphus miwai* Kishii

1♂, 黒岩尾根 (alt. 1800~1900m) #5338-66-64 7月1日

八ヶ岳や奥秩父西部の高地 (金峰山周辺) では普通だが、当地では少ない。

アカハネフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus fulvipennis* (Lewis)

1♂, 豆焼橋 (alt. 1050m) #5338-66-95 4月29日

チャグロヒラタコメツキ *Calambus mundulus* (Lewis)*

1♀, 雁坂峠 7月1日

ホウオウホソアカコメツキ *Ampedus houwau* Kishii*

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 MPA
 ミヤマホソチャバネコメツキ *Ampedus tokugoensis* に外見が似るが, 雄の交尾器側片末端の形状で区別できるという. 南アルプス鳳凰山から記載された種で, 埼玉県未記録 (図6).

ケブカコクロコメツキ *A. aureovestitus* Kishii*

1♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN
 1♀, 同地 8月3日
 埼玉県未記録 (図7).

チビクロコメツキ *A. pauxillus* (Lewis)*

1♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 PN
 埼玉県未記録.

ムネナガカバイロコメツキ *Ectinus longicollis* (Lewis)*

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月5日～15日 MPA
 1♂, 同地 6月15日～7月1日 MPA
 信州の山間部では普通だが, 埼玉県未記録.

ナガナカグロヒメコメツキ *Dalopius exilis* Kishii*

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN
 2♂, 同地 6月15日～7月1日 MPA
 1♂, 同地 7月15日～8月3日 MPA
 なお筆者は, 雁坂峠の山梨県側で, 高地性の稀種アズサチビコメツキ *Adzusa inexpecta* Kishii を採集している (難倉, 1999a).

ベニボタル科 (Lycidae)

ミヤマクシヒゲベニボタル *Macrolycus montanus* Nakane

1♂, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 MPA

ミヤマヒシベニボタル *Dictyoptera aurora* (Herbst) (図8)

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日
 埼玉県未記録.

クロバヒシベニボタル *D. elegans* Nakane et Winkler

1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日
 特徴ある色彩の山地性の種で, 埼玉県昆虫誌でも川又～雁坂峠の記録があるのみ.

マキムシモドキ科 (Derodontidae)

マキムシモドキ *Peltastica reitteri* Lewis

1頭, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月5日～15日 PN
 1頭, 同地 6月15日～7月1日 PN
 未発表だが, 山梨県の韮崎周辺でも同様の採集法で得られており, ピネントラップに誘引されるものようである. ベンジルアセテートに誘引された例もある (水野・細田, 1991).

ジョウカイボン科 (Cantharidae)

本科の種名については, 高橋 (1998) に従った. *を付した種は高橋和弘氏同定.

ヒルガタケクビボソジョウカイ *Podabrus hirugatakensis* Takahashi (図9)

1♂2♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月5日
 山地帯から亜高山帯に分布の中心を持ち, 中部地方以北で得られている. 埼玉県昆虫誌 III

によると、大滝村曲沢から記録されている。関東山地や八ヶ岳のものは、基産地丹沢のものに比べて色彩が全体に暗い。

コマツクビボソジョウカイ *P. komatsui* Nakane *

4♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA
 亜高山帯に生息。大滝村甲武信小屋で記録されている。

チャイロチビクビボソジョウカイ (本州亜種) *P. neglectus minus* Takahashi *

1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日

以下5種は埼玉県未記録。

キイクビボソジョウカイ (関東南部亜種) *P. kiiensis hakonensis* Takahashi *

2♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 MPA
 1♂, 同地 6月15日~7月1日 MPA
 1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 MPA

ヨシダクビボソジョウカイ (関東南部亜種)

P. yoshidai fujisanus Nakane et Makino *

1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

キントクビボソジョウカイ *P. kintokisanus* Takahashi

1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 MPA

ヒョウゴクビボソジョウカイ *P. hyogoensis* Nakane et Makino *

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 MPA
 1♂, 同地 6月15日~7月1日 MPA
 1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 MPA

シラコマクビボソジョウカイ *P. shirakomanus* Takahashi et Okushima *

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 MPA
 8♂, 同地 6月15日~7月1日 MPA (うち7♂は高橋・奥島・市田, 1999で, パラタイプ標本の記録として既に報告済である.)
 1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日
 つい最近記載された種で, 北八ヶ岳白駒池付近の亜高山性の針葉樹林内では多数得られており, その標本がホロタイプとなっている。中部日本の亜高山帯と, 青森県岩木山で記録されている。

クロジョウカイ *Athemus attristatus* (Kiesenwetter)

1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 PN

ウスチャジョウカイ *A. insulsus* (Harold)

2♂5♀, 豆焼橋 4月29日
 1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 MPA
 1♂, 同地 6月15日~7月1日 PN
 豆焼橋では, 次種と共に沢沿いの草本植物の葉上から得られた。

ミヤマヒメジョウカイ *A. alpicolus* (Nakane)

3♂5♀, 豆焼橋 4月29日
 1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA
 1♂2♀, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日
 1♂1♀, 同地 6月5日~15日 PN
 1♀, 同地 6月5日~15日 MPA

鞘翅の色彩は, 黒色の地に黄褐色の筋を持つ基本型である(雁坂嶺豆焼沢源頭部の1♀のみ黒化)。一方山梨県側では全体が黒化するものや黄褐色になる個体が見られ(難倉,

1999b), 一つの峠の南と北で変異の傾向が異なることは興味深い。

このほか、山梨県大菩薩などで得られている *Podabrus okadai* 系の未記載種が多数採集されている。

カッコウムシ科 (Cleridae)

アリモドキカッコウムシ *Thanassimus lewisi* Jacobson

1頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日~15日 PN

ツツシンクイ科 (Lymexylidae)

クシヒゲツツシンクイ *Hylecoetus flavellicornis* (Schneider) (図10)

9頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 PN

22頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

佐々木・斎藤 (1994) の秩父演習林内の調査でも、国道140号線沿いの低標高地において、同様のトラップ調査における優占種であった。山麓から稜線付近まで広く分布しているものと思われる。MPA剤には反応が見られなかった。体の大きさに変異が甚だしい。

ネスイムシ科 (Rhizophagidae)

上野輝久氏同定。

ニセケブカネスイ *Rhizophagoides kojimai* Nakane et Hisamatsu

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日~15日 MPA

2頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日~7月1日 MPA

埼玉県未記録。

ヤマトネスイ *Rhizophagus japonicus* Reitter

3頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

ケシクスイムシ科 (Nitidulidae)

*を付した種は上野輝久氏同定。

クロヒラタケシクスイ *Ipidia variolosa* Reitter

1頭, 黒文字橋 9月23日

ケモンケシクスイ *Atarphia fasciculata* Reitter

1頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 7月15日~8月3日 MPA

モンキイロセマルケシクスイ *Cychramus plagiatus* Reitter (図11)

1頭, 黒文字橋 8月3日

伐採されて朽ちた広葉樹の倒木にはえた茸に集集していた。埼玉県未記録。

ツツオニケシクスイ *Librodor subcykindricus* Reitter*

1頭, 川又~雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

クスイモドキ科 (Byturidae)

上野輝久氏同定。

エゾクスイモドキ *Byturus tomentosus* (De Geer) (= *B. oakanus*)

4頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日~7月1日 MPA

3頭, 同地 7月1日~15日 MPA

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

原色日本甲虫図鑑III(保育社)では、北海道のみが分布地になっているが、その後九州と本州でも発見された。本州での最初の記録地は群馬県菅沼(高橋, 1987)で埼玉県未記録。

オオキノコムシ科 (Erotylidae)

*を付した種は上野輝久氏同定。

クロハバビロオオキノコ *Neotriplax atrata* Lewis

1頭, 黒文字橋 9月23日

クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (Lewis)

1頭, 黒文字橋 9月23日

ズグロホソオオキノコ *Dacne zonalia* Lewis*

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

ベニモンムネビロオオキノコ *Microsternus perforatus* (Lewis) (図12)

1頭, 黒文字橋 9月23日

比較的少ない種で、埼玉県未記録。近県では神奈川の箱根や丹沢(平野, 1997), 長野県丸子町・開田村等(石川, 1988)で得られている。

ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami* Lewis

1頭, 黒文字橋 9月23日

オオキノコムシ *Encaustes praenobilis* Lewis

1頭, 黒文字橋 9月23日

黒文字橋では、いずれの種もブナ林中の菌類の生えた倒木や立枯れから採集された。

コキノコムシ科 (Mycetophagidae)

コマダラコキノコムシ *Mycetophagus pustulosus* (Reitter)

1頭, 黒文字橋 9月23日

ゴミムシダマシ科 (Tenebrionidae)

クロツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema nigroaeneum* Motschulsky

1頭, 黒文字橋 9月23日

ヨツボシゴミムシダマシ *Basanus erotyloides* Lewis

2頭, 黒文字橋 9月23日

上記2種はオオキノコムシ類といっしょに得られた。

クロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus colydioides* (Lewis)

4頭, 黒文字橋 8月3日

ホソヒゲナガキマワリ *Ainu tenuicornis* Lewis

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月1日~15日 MPA

キノコムシダマシ科 (Tetratomidae)

モンキナガクチキムシ *Penthe japana* Marseul

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月15日~8月3日 PN

デバヒラタムシ科 (Prostomidae)

ヒメデバヒラタムシ *Prostomis mordax* Reitter (図13)

1頭, 雁坂小屋 7月1日

ドラム缶に溜まった水に落下していた。最近, 平野(1994, 1995)は, 日本のデバヒラタムシ科に *P. mordax* と *P. latoris* (デバヒラタムシ) の2種がいることを指摘し, その出典や区別点, 分布について紹介している。前者の方がより寒冷地, 高標高地に片寄った分布をしている。埼玉県未記録。

クビナガムシ科 (Cephaloidea)

クビナガムシ *Cephaloon pallens* (Motschulsky)

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月1日~15日 MPA

アカハネムシ科 (Pyrochroidea)

ナカブサツチビロードムシ *Dendroides nakabusana* Kôno (図14)

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日~8月3日 MPA

高地性の種で, 筆者はハヶ岳でダケカンバの立枯れから得ている。埼玉県未記録。南アルプス鳳凰山では, ベンジルアセテートに誘引された例もある(水野・細田, 1991)。

オニアカハネムシ *Pseudopyrochroa japonica* (Heyden)

1♂, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 MPA

ナガクチキムシ科 (Melandryidae)

コイチャニセハナノミ *Orchesia marseuli* Lewis

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日~8月3日 MPA

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月15日~8月3日 PN

1頭, 黒文字橋 9月23日

ハラアカホソナガクチキ *Phloeotrya rufoventris* Nomura

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 7月1日

1頭, 黒岩尾根 7月1日

黒岩尾根ではダケカンバの立枯れに飛来した。山地性の種で, 埼玉県昆虫誌 IIIでも雁坂峠の記録があるのみ。

カミキリモドキ科 (Oedemeridae)

クロカミキリモドキ *Ezonacerda nigripennis* (Matsumura)

3頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日~15日 MPA

カミキリムシ科 (Cerambycidae)

*を付した種は筒井謙氏同定。

ニセハムシハナカミキリ *Lemula japonica* Tamanuki

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

埼玉県昆虫誌では空白となっていたが, 石蔵(1998)が大滝村奥秩父林道から記録した。

カクムネヒメハナカミキリ *Pidonia orientalis* Matsushita*

1 ♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN

1 ♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日～8月3日 MPA (図15)

中部山岳地帯とその周辺の亜高山帯に生息する。本種と次種は埼玉では雲取山や中津川林道で記録されている。どちらも埼玉県からもっと採集されてよい種である。

ホソガタヒメハナカミキリ *P. semiobscura* (Pic)

1 ♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日～15日 MPA

1 ♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 MPA (図16)

オオヒメハナカミキリ *P. grallatrix* Bates

1 ♂ 1 ♀, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月15日～8月3日 MPA

オヤマヒメハナカミキリ *P. oyamae* (Oyama)*

1 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日～7月1日 MPA

17 頭, 同地 7月1日～15日 MPA

2 頭, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 MPA

ムネアカヨコモヒメハナカミキリ *P. masakii* Hayashi*

1 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日～15日 MPA 前胸が例外的に黒い個体。

ヨコモヒメハナカミキリ *P. insuturata* Pic*

1 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日～7月1日 MPA

26 頭, 同地 7月1日～15日 MPA

1 頭, 同地 7月15日～8月3日 MPA

2 頭, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 7月1日～15日 MPA

1 頭, 同地 7月15日～8月3日 MPA

中部地方から東北地方南部にかけての、ブナ帯から針葉樹林帯の林床に広く生息している。

チャイロヒメハナカミキリ *P. aegrota* (Bates)

3 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日～15日 MPA

1 頭, 同地 7月15日～8月3日 MPA

ニセフタオビノミハナカミキリ *P. testacea* (Matsushita)*

1 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月15日～7月1日 MPA

54 頭, 同地 7月1日～15日 MPA

4 頭, 同地 7月15日～8月3日 MPA

1 頭, 川又～雁坂峠 (樺小屋付近) 6月15日～7月1日 MPA

2 頭, 同地 7月1日～15日 MPA

1 頭, 同地 7月15日～8月3日 MPA

より低標高地に生息する近似種フタオビノミハナカミキリ *P. puziloi* は、まったくトラップされなかった。 *testacea* は長野県島々谷では標高1500m以上に生息し、中部山岳や日光山塊などに分布する (窪木, 1983)。埼玉でも、記録は雲取山や十文字峠のような高地に限られているが、豆焼沢源頭部 (2000m) では最優占種である。また、トラップされた個体数が7月後半で激減していることは、7月前半で本種が出尽くしたことを示唆しているが、この標高としては発生の早さが異常で、春先の高温が影響している可能性が高い。

1998年は、表日本の山間部では記録の豪雪になったが、4月に異常な炎天が続き、梅雨期は平年以上の高温多雨であり、植物の開花や昆虫の発生消長が早かった年である。そのためか、雁坂小屋付近のアズマシャクナゲは6月上旬で満開になったが、花にはカミキリムシが見られなかった。このあたりの高標高地では、平年ならば、新緑におおわれるのは6月に入ってからと思われ、年によってはこの花とカミキリムシの発生が合うかもしれない。また、豆焼沢源頭部の滝の付近には7月にショウマ類の花が咲き、*Pidonia* などが集まる。

チャボハナカミキリ *Pseudalosterna misella* (Bates)

3 頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月15日～8月3日 MPA

4頭, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 7月15日～8月3日 MPA

ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes* (Bates)

2♂2♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日～15日 MPA

ニンフハナカミキリ *Parastrangalis nymphula* (Bates)

1♀, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日～15日 MPA

1♂, 同地 7月15日～8月3日 MPA

1♂, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 7月15日～8月3日 MPA

フジコブヤハズカミキリ *Mesechthistatus fujisanus* Hayashi

1♂, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 5月27日～6月5日 PF(枯れ沢沿いのトラップ)

ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata* (Bates)

1♂, 黒文字橋 7月16日

ブナの伐採木から得た.

ゴマダラモモブトカミキリ *Leiopus stillatus* Bates

川又～雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN

佐々木・斎藤(1994)の調査で優占種であったニイジマトラカミキリ・キスジトラカミキリ・ヤハズカミキリなどがトラップされなかった. 今回の設置地点の付近は針葉樹林帯で, これらの種の寄主植物の広葉樹が乏しいためと考えられる.

ハムシ科 (Chrysomelidae)

カバノキハムシ *Syneta adamsi* Baly

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日～15日 MPA

1頭, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日～15日 MPA

ヤナギルリハムシ *Plagiodela versicolora* (Laicharting)

4頭, 黒文字橋 9月23日

ヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis* (Laboissiere)

2頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1～15日 PN

1頭, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN

1頭, 同地 7月1～15日 MPA

1頭, 同地 7月1～15日 PN

ゾウムシ科 (Curculionidae)

小島弘昭博士同定.

シラホシニセイネゾウムシ *Caenosilapillus babai* Chûjô et Morimoto

2頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日～15日 PF

地表性で, 落葉の中から得られる稀種. 山形・新潟・岩手・石川県から見つかっており, 埼玉県未記録(図17).

クロツツクイゾウムシ *Magdalis galloisi* Kôno

1頭, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日～7月1日 PN

北海道と本州に分布する稀種で, 埼玉県未記録(図18). 最近では長野県長谷村で得られている(降旗・降旗・吉沢, 1994).

ナガアナキゾウムシ *Dyscerus laeiventris* (Hustache)

1頭, 川又～雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日～15日 PN

ミヤマアナアキゾウムシ *Hylobitelus montanus* Kôno

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 7月1日~15日 PN

3頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

北海道・奥日光・日本アルプスから記録されており, 針葉樹につく (Morimoto, 1982).

岐阜県の例では標高1500m以上で得られている (野平, 1982). 埼玉県未記録 (図19).

マルミナガクチカクシゾウムシ *Rhadinomerus subovatus* Morimoto

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月5日~15日 PN

埼玉県未記録 (図20).

コブマルクチカクシゾウムシ *Acallinus tuberculatus* Morimoto

1頭, 雁坂嶺豆焼沢源頭部 6月5日~15日 PF

地表性で, 落葉の中から得られる種. 埼玉県未記録 (図21).

マツコブキクイゾウムシ *Xenomimetes destructor* Wollaston

1頭, 川又~雁坂峠(樺小屋付近) 6月15日~7月1日 PN

◎考察

大滝村の雁坂峠一帯は, 埼玉で最も標高差が大きい地域にあり (谷底の標高は700m, 稜線は2200m), 原生林も豊富である. 実際, 県内で記録のほとんど無い種がわずかな調査時間で次々と見つかり, 甲虫相の豊富さを物語っている. 採集法にも片寄りがあり, 登山を急いだため山麓はあまり調べていない. 種類数も少なくわずか110種余りであり, 満足できるものとはいえないが, 本報告にリストアップされた種から, 当地の特徴について記しておきたい.

まず, 本州中部の亜高山帯に生息する種が, 県の未記録種としていくつか発見されていることである. アオキノカワゴミムシ, ナカブサツチピロードムシ, ミヤマアナアキゾウムシ等はその代表的な種であろう. また, 形態の差異がより低地にいる近似種と微妙なものもあり (たとえばハネアカナガゴミムシやヒメデバヒラタムシ), 同定の精度を上げることでより多くの記録をもたらすことは可能である. こうした種が得られることは, 県の屋根をなす雁坂峠から甲武信岳にかけての, 奥秩父主稜部ならではの特徴であり, 日本アルプスや八ヶ岳のファウナの延長とも考えられる. 更に, トラップに入った, 設置地点の優占種も, 当地の環境を特徴づけるものとして重要なものである. 今回トラップを設置したのは標高1700mおよび2000mの地点であるが, これは標高の高いところに生息するものに, 筆者がまず重点をおいたためである. 地表性のものでは, 捕食者であるチチボソクロナガオサムシやミヤマナガゴミムシ, 腐敗動物質に集まるホソヒラタシテムシなどが普通に得られている. ヨコモモンヒメハナカミキリ, ニセフタオビノミハナカミキリなどの食料性昆虫は, 化学トラップで多く得られている. これらは本州中部のブナ帯上限からトウヒ帯下部に位置するトラップ設置箇所の特性をよく現わしており, それに相応した甲虫相が展開されていると思われる.

雁坂峠の登山口である川又は標高約700mである. 埼玉県昆虫誌によれば, 平地性のアオゴミムシ類であるオオキベリアオゴミやコキベリアオゴミがここから得られているし, 最近日本に侵入したコルリアトキリゴミムシも記録されている. また, ネムノキにつく比較的南方系アオスジカミキリも採れている. こうした事実は, 秩父山塊の山奥と思えるこの地域に, 平地に多い種や南方系要素, さらに帰化昆虫までが, ある程度侵入できることを示している. 従って, 本州中部の森林地帯に産する甲虫のかなりの部分が当地に生息しているはずである. しかし, 湿地を欠き, 草原も乏しいので, そのような環境に依存するものはあまり期待できないと思われる.

大滝村からは約1200種の鞘翅目昆虫が記録されているが, これは埼玉県全体の種類数の半数に満たない. また長野県松本市の1447種や, 山梨県韮崎市鳳凰山の2068種 (但し, これらには未記載種や未同定種を少数含んでいる) に比較してかなり少ない. 今後埼玉県の高標高地での調査がより進むことを期待したい.

◎謝辞

最後になったが, 標本の同定などでお世話になった以下の諸氏に厚くお礼申し上げる. 岸井尚博士 (大阪府高槻市), 小島弘昭博士 (九州大学農学部昆虫学教室), 岸本年郎博士・島田孝氏 (東京農業大学昆虫学教室), 豊田浩二氏 (埼玉県嵐山町), 平沢伴明氏 (長野県三郷村), 高橋和弘氏 (神奈川

県平塚市), 上野輝久氏(九州大学農学部昆虫学教室), 筒井謙氏 (東京都日の出町). また東大秩父演習林の佐々木和男氏からは演習林における文献資料を恵与頂き, 浦和市の芳賀馨氏には, シデムシの垂直分布についての文献入手に便宜をはかって頂いた. これらの方々の協力とご教示なしには, 本報告はなし得なかった. またキクイムシなど一部のグループで未同定種が残ったが, これについては別の機会に報告したい.

◎参考文献

- 降旗剛寛・降旗進一郎・吉沢尚広, 1994. 長野県のゾウムシ 第I報. まつむし (85): 1-38.
- 早川広文, 1996. 長野県のゴミムシ 第II報. まつむし (87): 1-59.
- 林 匡夫・森本桂・木元新作, 1984. 原色日本甲虫図鑑IV. 保育社, 大阪.
- 難倉正人, 1999a. アズサチビコメツキを奥秩父山系で採集. 月刊むし (338): 43.
- 難倉正人, 1999b. 南部フォッサマグナ地域とその周辺におけるミヤマヒメジョウカイの色彩地理変異. 神奈川虫報 (126): 1-12.
- 平野幸彦, 1994. 日本のデバヒラタムシは何種か. 神奈川虫報 (107): 13-19.
- 平野幸彦, 1995. デバヒラタムシの補遺. 神奈川虫報 (111): 21-23.
- 平野幸彦, 1997. 神奈川県のおオキノコムシ. 神奈川虫報 (119): 13-22.
- 石川 豊, 1988. 長野県産オオキノコムシ科甲虫の採集記録. まつむし (75): 27-31.
- 石蔵 拓, 1998. 埼玉県産カミキリムシ目録 (1998). 寄せ蛾記 (88): 2521-2582.
- 岩田隆太郎・榎原 寛, 1994. 林業害虫用市販昆虫誘引器・誘引剤による昆虫採集法. 月刊むし (281): 18-23.
- Kamimura, K., Nakane, T., & N. Koyama, 1964. Seasonal and altitudinal distribution of beetles in Mt. Jonen, the Japan Alps, with descriptions of new species, I (Studies on the insects of high mountains, III). Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ. (Nat. Sci., Liv. Sci. & Welf. Sci.), No. 15, Ser. A: 17-38.
- 笠原須磨生, 1984. ハネアカナガゴミムシの分布記録. 月刊むし (161): 37-38.
- 窪木幹夫, 1983. ヒメハナカミキリの分類と分布. 昆虫と自然 18 (2): 19-26.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之, 1985. 原色日本甲虫図鑑III. 保育社, 大阪.
- 松本市史自然部門編集委員会, 1997. 松本市史自然部門調査報告書第1集, 松本市の昆虫.
- 水野弘造・細田律市, 1991. 鳳凰山産甲虫類目録 (山梨県韭崎市). 関西甲虫談話会資料 No. 2.
- Morimoto K., 1982. The family Curculionidae of Japan I, Subfamily Hylobiinae. Esakia, 19: 51-121.
- 野平照雄, 1982. 岐阜県のゾウムシ類. 岐阜県の昆虫, 岐阜県環境部環境保全課: 163-170.
- 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三, 1992. 日本産カミキリムシ検索図説. 東海大学出版会, 東京.
- 佐々木和男・斎藤俊浩, 1994. 秩父演習林における穿孔虫類の発生予察試験. 平成5年度技術官等試験研究・研修会議報告. pp.11-21.
- 高橋和弘, 1998. 日本産ジョウカイボン科目録. 神奈川虫報 (122): 29-48.
- 高橋和弘・奥島雄一・市田忠夫, 1999. 青森県のジョウカイボン科(コウチュウ目), III. 倉敷市立自然史博物館研究報告 (14): 17-48.
- 高橋泰美, 1987. エゾキスイモドキの本州からの記録. 月刊むし (196): 38.
- 豊田浩二, 1998. 埼玉県における甲虫類の記録 1994~96. 寄せ蛾記 (86): 2440-2459.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社, 大阪.
- 吉越 肇・小田 博・竹内崇夫・西山 明・小堀 文彦・長畑 直和・牧林 功, 1998. 埼玉県の鞘翅目(甲虫類). 埼玉県昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会, 大宮 pp.93-340.
- 吉越 肇・小田 博・竹内崇夫・西山 明・小堀 文彦・長畑 直和・牧林 功, 1999. 『埼玉県の鞘翅目(甲虫類)』への訂正と追加. 埼玉県昆虫誌別巻, 埼玉昆虫談話会, 大宮 pp.25-31.

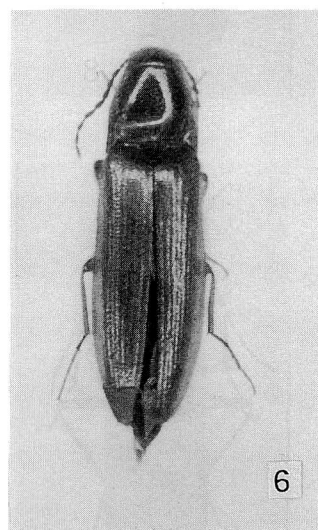
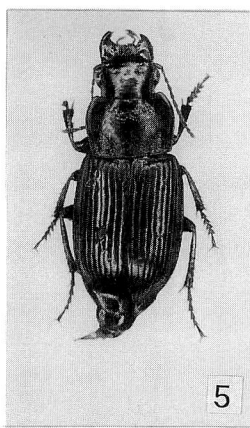
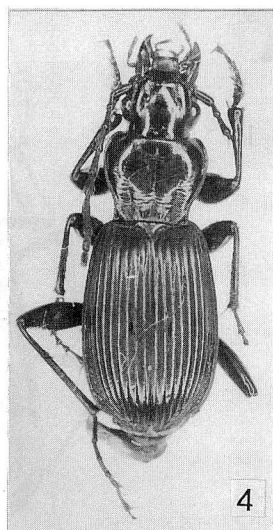
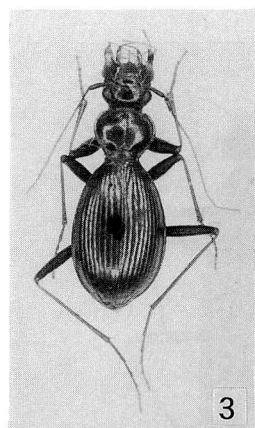
Summary

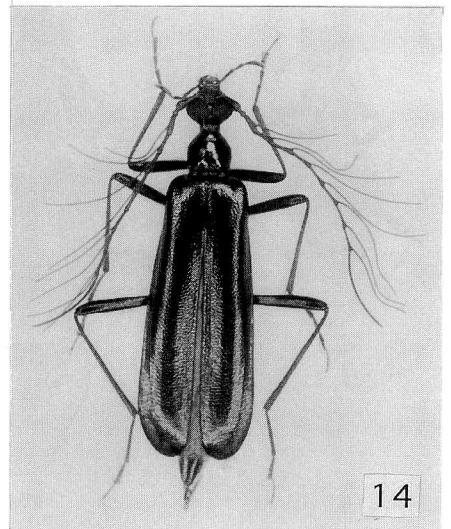
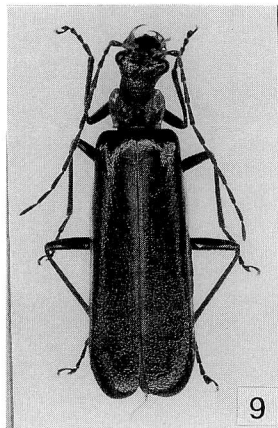
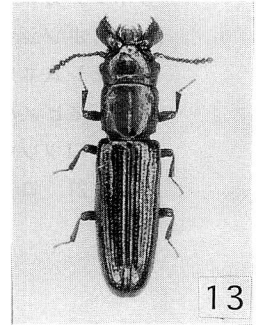
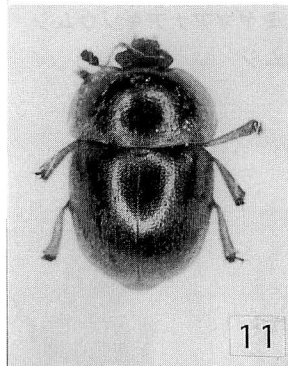
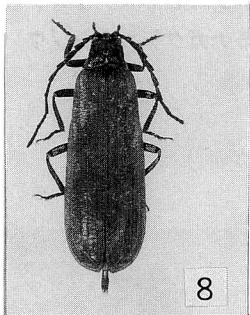
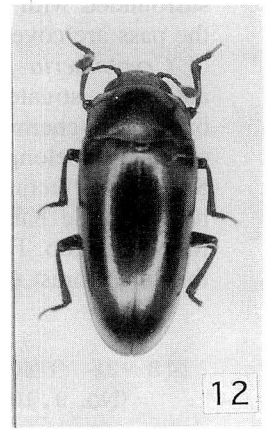
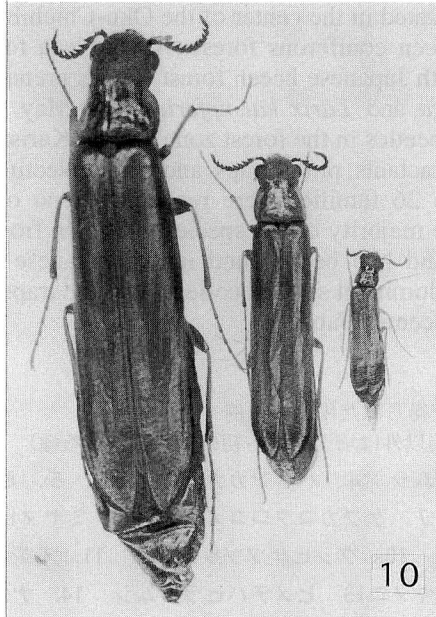
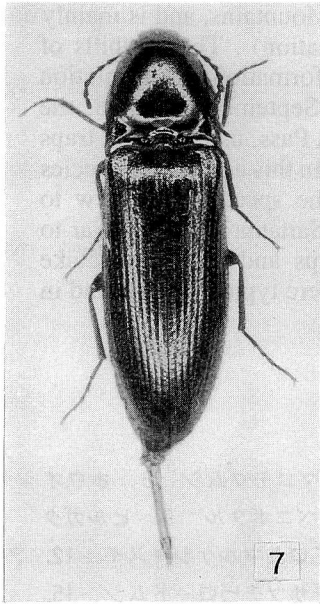
Karisaka Pass is located in the center of the Oku-Chichibu Mountains, and is mainly surrounded with evergreen coniferous forest (*Abies-Picea* formation). The foothills of the pass are covered with Japanese beech forest (*Fagus crenata* formation) or plantation of *Cryptomeria japonica* and *Larix kaempferi*. From May to September in 1998, the author investigated the beetles in the forest zone around Karisaka Pass, using plastic traps baited with chemical attractants, pitfall traps, and field collecting. In this article, 118 species of beetles belonging to 26 families were recorded, some of the species were new to Saitama Prefecture. The majority of the species unknown from Saitama were peculiar to high altitude habitats and had been found in the Japanese Alps and the Yatsugatake Mountains too. The predominant species collected by the traps were typical ones found in the upper forest zone of central Japan.

図3～21 今回の調査で得られた甲虫の一例

(No. 9, 10, 15, 16以外は埼玉県から初めて記録される種)

3. アオキノカワゴミムシ 4. ハネアカナガゴミムシ 5. ミヤマゴモクムシ 6. ホウオウホソアカコメツキ 7. ケブカコクロコメツキ 8. ミヤマヒシベニボタル 9. ヒルガタケクビボソジョウカイ 10. クシヒゲツツシンクイ 11. モンキイロセマルケシキスイ 12. ベニモンムネビロオオキノコ 13. ヒメデバヒラタムシ 14. ナカブサツチビロードムシ 15. カクムネヒメハナカミキリ 16. ホソガタヒメハナカミキリ 17. シラホシニセイネゾウムシ 18. クロツツキクイゾウムシ 19. ミヤマアナアキゾウムシ 20. マルミナガクチカクシゾウムシ 21. コブマルクチカクシゾウムシ





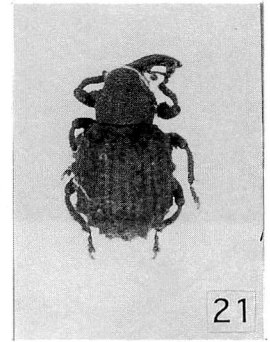
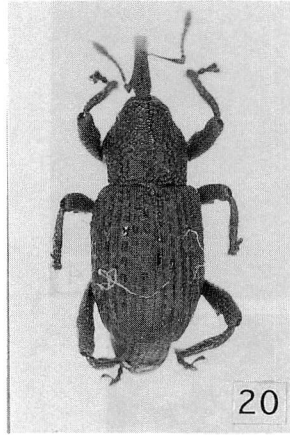
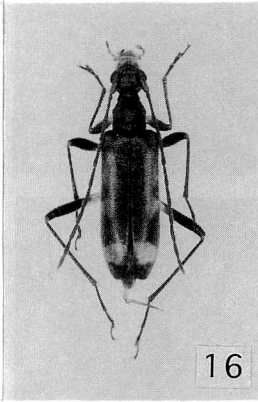
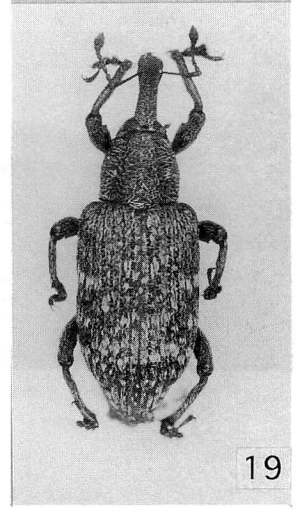
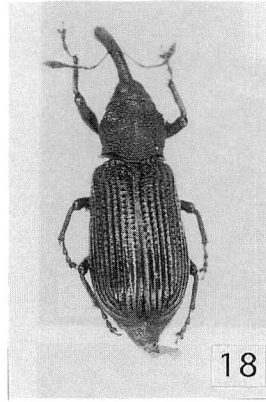
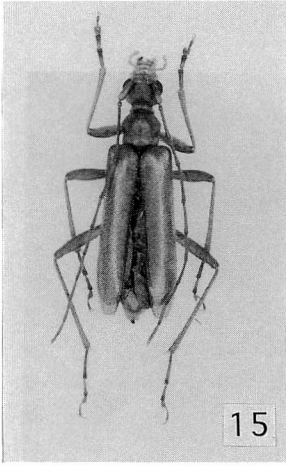
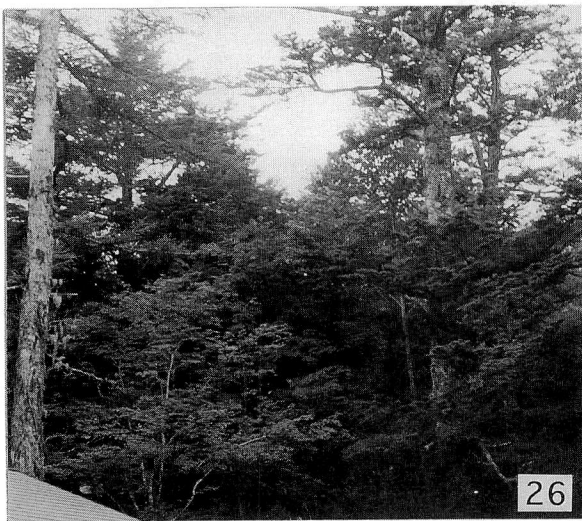
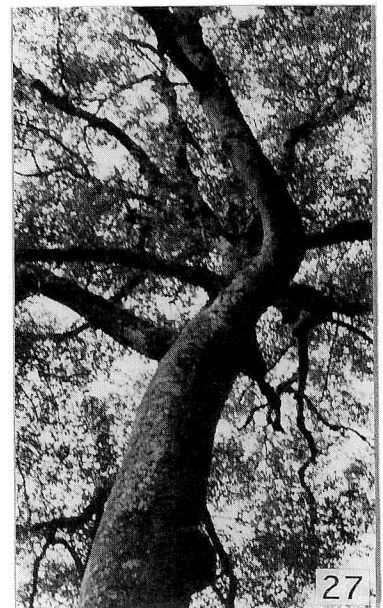
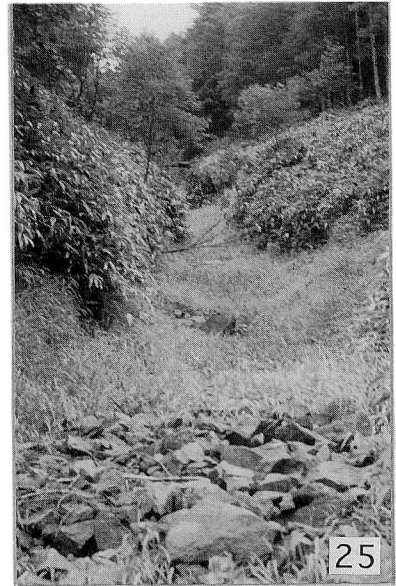
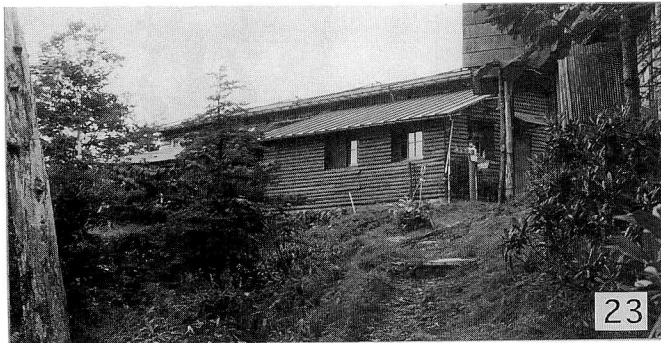


図22 雁坂峠 (左下のベンチで座っていると、山梨県側からの上昇気流で多くの昆虫が見られることがある。)



- 図23 雁坂小屋 (宿泊要予約)
図24 豆焼沢源頭から雁坂小屋方面を望む (登山道より上が原生林)
図25 ビットホールトラップを埋設した枯れ沢
図26 樺小屋付近 (この小屋は無人で常時開放。周囲は、奥秩父特有の湿潤な針葉樹原生林。)
図27 黒文字橋付近のブナの大木 (東京近郊では少ない、発達したブナ林が見られる。)

両神山で採集されたミヤマフトヒラ タコメツキとフチヘリジョウカイ

籾倉 正人

ミヤマフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus kurofunei* (Miwa) は、埼玉県昆虫誌によると県内から正式な記録が見られないようなので、筆者の両神山での採集例を報告しておく。

データ

1♂1♀, 両神村日向大谷 (Ryokami Vil. Hinataohya), 29. IV. 1998

環境庁メッシュコード: 5438-06-21

広葉樹の二次林に囲まれた谷筋のカエデの花から得た。筆者採集保管。

Acteniceromorphus 属には上翅が赤くならないよく似た山地性の種が多いが、ミヤマフトヒラタコメツキはそれらの中でも比較的普通の種であり、伊豆の下田が基準産地になっていて、本州・四国・九州に分布している。埼玉県からはより多くの種の追加が可能と思われる。

なお、同所で埼玉からの記録が少ないフチヘリジョウカイ *Athemus maculiellytris* Ishida も1♂採集した。フチヘリジョウカイは、保育社の甲虫図鑑III (1985) では分布が九州のみになっているが、原記載 (Ishida, 1986) では四国と本州からも分布が確認されていて、埼玉県のMt. Izugatake (おそらく飯能市と名栗村の境にある伊豆ヶ岳と思われる) の個体がパラタイプの一つになっている (図鑑に記載に先行した理由を筆者は知らない)。現在は東北地方北部にも少ないながら生息することがわかっている。山梨あたりでは谷沿いのカエデの花に比較的普通に見られるので、もっと採集されてよいと思う。

参考文献

- Ishida, K., 1986. A revision of the two genera, *Athemus* and *Athemellus*, of Japan (Coleoptera Cantharidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society 17 (4): 193-213.
- Kishii, T., 1987. A taxonomic study of the Japanese Elateridae (Coleoptera), with the keys to the subfamilies, tribes and genera. (学位論文/自刊)
- 小田博ほか, 1998. 埼玉県の鞘翅目 (甲虫類). 埼玉県昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会, 大宮 pp.93- 340.
- 奥島雄一・市田忠夫, 1998. 青森県のジョウカイボン科 (コウチュウ目), II. 倉敷市立自然史博物館研究報告 (13): 1-26.
- 佐藤正孝ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑III. 保育社, 大阪.

ムナクボナガクチキの埼玉県における過去の採集例について

籾 倉 正 人

ムナクボナガクチキ *Euryzilora lividipennis* Lewis は少ない種で、埼玉県昆虫誌によると県内から正式な記録が報告されていない。筆者は、過去の文献中の奥秩父産の記録について、埼玉県産であることを確認したので、ここに改めて記録しておく。

林長閑博士は、1970年初夏、奥秩父の梓山（長野県川上村）から十文字峠に至り、中津川林道に下る途中で、ブナの朽木の樹皮下から本種の幼虫を採集し、羽化させた。このときの記録が Kontyu 43 (2) に、日本産のナガクチキ14種の幼虫の記載の中で紹介されている。データは次の通り。

12 exs., living under bark of decaying wood (*Fagus crenata*), Jiumonji-toge, Okuchichibu, 8. VI. 1970, N. Hayashi leg.

この文中では、採集地点が長野か埼玉か不明であるので、私信にて問い合わせ確認したものである。なお、現在は十文字峠から中津川林道に直接下る道は存在しない。本種は、隣接する東京・群馬・長野の都県から記録があるようで、奥秩父のブナ帯でもっと見つかって良い種である。

末筆ながら、出典についてのご指摘を頂いた水野弘造氏と、四半世紀以上前の採集時の記録を的確にたどられ、御教示頂いた林長閑博士に感謝申し上げます。

参考文献

- Hayashi, N., 1975. On the larvae of Melandryidae (Coleoptera, Cucujoidea) and some related families occurring in Japan. Kontyu 43 (2): 147-169.
- 水野弘造, 1992. 日本産ナガクチキムシ科甲虫都道府県別分布表. 関西甲虫談話会資料 No. 3.
- 小田博ほか, 1998. 埼玉県の鞘翅目(甲虫類). 埼玉昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会, 大宮: 93-340.

(ひなくら まさと 〒112-0001 東京都文京区白山2-20-13 鯉田荘)

戸田市でヒラタクワガタを採集

加門 昭徳

戸田市道満公園にて、ヒラタクワガタの採集記録があるので報告する。

1♂, 21. VII. 1994 戸田市道満公園, 木村一仁 採集・保管

夜間、クヌギの樹液近くで採集された44ミリの個体である。なお、同公園は、現在では、道満グリーンパークと改名のうえ再整備されており、環境保全のために一部立入禁止区域が設けられている。

(かもん あきのり 〒336-0034 浦和市内谷5-17-9)

江南町の追加すべき直翅類

内田 正吉

江南町（埼玉県大里郡）の直翅類は、ゴキブリ目2種、カマキリ目3種、直翅目62種、ナナフシ目1種、ハサミムシ目3種の合計5目71種が記録されている（内田，1998a）。筆者は、1998年9月25日に、江南町押切の荒川左岸側の河原において、同町に追加すべき直翅類を3種確認しているのを報告する。なおこれは、テレビの取材の際に確認できたものである。報告にあたり、お世話になった牧林功氏ならびに日本テレビのスタッフのみなさまにお礼申し上げる。また、ムカデについてご教示くださった桑原幸夫氏にお礼申し上げる。確認した時間帯は夕方6時ころから夜12時ころにかけてである。確認者はすべて内田である。

MANTODEA カマキリ目

Mantidae カマキリ科

Mantis religiosa (Linnaeus) ウスバカマキリ 1♂採集。

本種は埼玉県からの近年における記録がなかったものである（内田，1998b）。標記個体は、チガヤやススキが広がる乾燥した草原で確認された。この草原にはマツムシやショウリヨウバッタモドキなど、比較的安定している乾性草原性の昆虫が少なからず生息しているので、本種もこのような環境の指標性の高いカマキリであると考えられる。

ORTHOPTERA 直翅目

Tettigoniidae キリギリス科

Conocephalus japonicus (Redtenbacher) コバネササキリ 2♂鳴き声，2♀目撃。

前述のウスバカマキリがいたのと同じ草原で確認された。この草原にはオナガササキリが多数生息していて、それと混生している状態で確認された。通常湿地の草原（ヨシ群落や谷津田の水田など）に生息する本種が、乾性草原（おもにススキ群落）に生息するオナガササキリと同じ環境から見いだされたのは、意外であった。

Catantopidae イナゴ科

Nomadacris japonica (Bolivar) ツチイナゴ 1♂目撃。

乾燥した草原に接した灌木林の林縁付近に見られた。

このほかに、この日に同河原で確認できた主な種類は以下のとおり。ツユムシ（多数目撃）、セズツユムシ（5頭ほど目撃）、シブイロカヤキリモドキ（1♂目撃）、クサキリ（3♂目撃）オナガササキリ（鳴き声多数）、ウスイロササキリ（2♂鳴き声）、マツムシ（鳴き声多数）、スズムシ（鳴き声）、カンタン（4♂鳴き声）、セグロイナゴ（2頭目撃）、ショウリヨウバッタ（2♀目撃）、ショウリヨウバッタモドキ（2♂目撃）。

この他にクサキリ（緑色型）の1個体が丈の低い草の葉上で体長10cm程度の大型のムカデに捕食されているのを目撃した。残念ながらカメラもなく、詳しい観察をする時間もなかったが、ムカデは頭部が褐色をした個体で、大顎でしっかりとクサキリをくわえていた。クサキリは腹端が食われていた。多足類を研究されている桑原幸夫氏にうかがったところ、色彩の特徴などからトビズムカデであろうとこのことである。クサキリの天敵の1事例として付記する。

参考文献

内田正吉 (1998a) 江南町の直翅類. 江南町史, 自然編 1 動物, pp.251-260.

内田正吉 (1998b) 埼玉県のカマキリ目. 埼玉県昆虫誌 I, pp.63-66.

(うちだ まさよし 〒369-1202 大里郡寄居町桜沢1505)

北足立郡吹上町の直翅類

和田 一郎

吹上町は、昆虫類の採集記録がほとんど無い所であり、直翅類では、埼玉県昆虫誌にその記録が全く無い。昆虫誌が出来上がる頃の1998年10月3日にようやく採集する機会を得たので報告しておく。採集地は、大里村との境を流れる荒川の河川敷であり、大芦橋の北西側周辺（吹上町大芦、メッシュコード5439-1305）である。よく調査されている江南町や寄居町との共通種も期待できる所である。

しかしながら、河川敷は少し前に大きな被害をもたらした台風の爪痕が残っており、ヨシは倒され、他の植物も泥塗れになっていた。この為かどうかはわからないが、この時期多いはずのコバネイナゴやオンブバッタが非常に少なかった。逆に、県内では生息地が限定されているはずのエゾエンマコオロギが同行者の採集品に混ざっていた。

内田さんによれば、台風のために、江南町押切河原にあるエゾエンマの生息地が一部流されたとの事なので、これらが流されてきたのかもしれない。今年もその声を聞くことができれば、新産地ということになるのだが。

なお、確認者が筆者である場合にはIW、同行者の佐藤祐治氏である場合にはYSと略記した。

(採集、確認種リスト)

Tettigoniidae キリギリス科

1. *Phaneroptera falcata* ツユムシ 1♀ IW
2. *Euconocephalus varius* クビキリギリス 1♂ (褐色) 1♀ (緑) IW
3. *Conocephalus chinensis* ウスイロササキリ 6♂ 8♀ IW,YS
4. *Conocephalus japonicus* コバネササキリ 1♀ (長翅型) IW

Gryllidae コオロギ科

5. *Velarifictorus micado* ツツレサセコオロギ 2♂ 3♀ YS
6. ?*Nemobiodes nipponensis* ヒメコオロギ 鳴き声 (3ex.) IW
7. *Loxoblemmus doenitzi* ミツカドコオロギ 2♂ YS
8. *Teleogryllus emma* エンマコオロギ 3♂ 1♀ IW,YS
9. *Teleogryllus yezoemma* エゾエンマコオロギ 1♂ YS
10. *Truljalia hibinonis* アオマツムシ 鳴き声 (1ex.) IW
11. *Pteronemobius ohmachii* ヤチスズ 鳴き声 (数ex.) IW
12. *Dianemobius nigrofasciatus* マダラスズ 鳴き声 (多数) IW

Pyrgomorphidae オンブバッタ科

13. *Atractomorpha lata* オンブバッタ 1♂ 2♀ IW,YS

Catantopidae イナゴ科

14. *Oxya yezoensis* コバネイナゴ 1♂ YS
15. *Shirakiacris shirakii* セグロイナゴ 1♂ 1♀ IW,YS

Acrididae バッタ科

16. *Acrida antennata* ショウリョウバッタ 1♂ 2♀ IW,YS
17. *Locusta migratoria* トノサマバッタ 2♂ (褐色1, 緑1) IW,YS

Tetrigidae ヒシバッタ科

18. *Criotettix japonicus* トゲヒシバッタ 1♂ 3♀ IW
19. *Euparatettix insularis* ハネナガヒシバッタ 4♂ 5♀ IW
20. *Tetrix japonica* ハラヒシバッタ 2♂ 4♀ IW

飯能市から得られた若干のアリ類

内田 正吉

埼玉県のアリ類は南部(1998)によりまとめられており、86種が記録されている。その中で、飯能市から記録されているのは、ノコバウロコアリの1種のみである。

筆者は1998年9月23日に盛口満氏のご案内で、飯能市内の2地点において、14種のアリを確認することができたので、分布資料として報告する。ケアリ属 *Lasius* をの除いたすべての種は筆者が同定した。ケアリ属は園部力雄氏に同定していただき、他の種についても園部氏に標本を見ていただき種の確認をしていただいた。

報告にあたり、フィールドをご案内くださった盛口満氏、並びに文献をご恵与くださり標本を同定してくださった園部力雄氏に、厚くお礼申し上げる。

採集をおこなったのは、次の2地点である。

(B)飯能市飯能・諏訪八幡神社境内(MC: 5339-62-25)

(F)飯能市落合(MC: 5339-52-96)

諏訪神社境内では、シラカシなどの生える小規模な照葉樹の林縁付近の地表や、日当たりのよい踏み固められた地表などにいるアリを採集した。落合では、北向きの緩やかな斜面にあるクリ林やその周囲で、地表や樹上にいるアリを採集した。

なお、採集した個体はすべて働きアリである。

記録されたアリ類

Brachyponera chinensis (Emery) オオハリアリ

諏訪八幡神社：3頭採集。やや薄暗い地表付近を比較的多くの個体が徘徊していた。採集した個体のうち1個体には、右後脚腿節基部付近に、同種の個体が大あごで噛み付いていた(噛み付いていた個体は死んでいたと思う)。

Crematogaster matsumurai Forel ハリフトシリアゲアリ

落合：6頭採集。クリの樹幹に比較的多くの個体が見られた。

Crematogaster osakensis Forel キイロシリアゲアリ

落合：5頭採集。クリ林付近のカキの樹下のカキの実が落ちていたあたりの地表に、10頭程度がまとまって見られた。

Pheidole fervida F. Smith アズマオオズアリ

落合：3頭採集。前種同様、カキの実が落ちていたあたりの地表に見られた。

Pristomyrmex pungens Mayr アミメアリ

落合：2頭採集。クリの樹幹に行列を形成していた。

Tetramorium caespitum (Linnaeus) トビイロシワアリ

諏訪八幡神社：2頭目撃。

Hypoclinea sibirica (Emery) シベリアカタアリ

落合：1頭採集。クリの樹幹の根本付近に見られた。

Camponotus japonicus Mayr クロオオアリ

諏訪八幡神社：1頭採集。踏み固められた地表に見られた。

Camponotus kiusiuensis Santschi ミカドオオアリ

落合：1頭採集。クリの枝葉に数頭がいるのを盛口氏が発見された。小型のアブラムシの甘露をなめていた。

Formica japonica Motschulsky クロヤマアリ

諏訪八幡神社：1頭採集。踏み固められた地表に数個体が見られた。

Formica hayashi Terayama et Hashimoto ハヤシクロヤマアリ

落合：2頭採集。クリの樹幹の根本付近に数個体が見られた。

Lasius spathepus Wheeler クサアリモドキ

諏訪八幡神社：5頭採集。やや薄暗い地表付近にて行列を形成していた。

Lasius niger (Linnaeus) トビイロケアリ

諏訪八幡神社：1頭採集。

落合：16頭採集。クリの樹幹に行列を形成していた

Paratrechina flavipes (F. Smith) アメイロアリ

諏訪八幡神社：3頭採集。

落合：2頭採集。クリ林の地表にいた。

2地点とも30分間ほどの短時間での採集であり、じっくり探せばそれぞれの地点で、より多くの種が確認されることが予想された。なお盛口氏は落合のクリ林において以前にトゲアリを確認されており、2人で注意して探したが発見することはできなかった。

参考文献

南部敏明 (1998) 埼玉県の膜翅目 (ハチ・アリ類)。埼玉県昆虫誌 III. pp.9-92.

日本蟻類研究会 (1989) 日本産アリ類の検索と解説 (I)。42pp.

日本蟻類研究会 (1991) 日本産アリ類の検索と解説 (II)。56pp.

日本蟻類研究会 (1992) 日本産アリ類の検索と解説 (III)。94pp.

(うちだ まさよし 〒369-1202 大里郡寄居町桜沢1505)

埼玉県におけるキアシガガンボモドキの採集記録

内田 正吉

埼玉県のカガンボモドキ類は牧林(1998)によりまとめられ、4種がリストされている。筆者は、埼玉県からは未記録と思われるキアシガガンボモドキを採集しているので、報告する。採集データは以下のとおりである。

キアシガガンボモドキ *Bittacus laevipes* Navas

埼玉県秩父郡吉田町城峯山・城峯神社 (alt.930m, MC:5439-10-10) : 1♂, 30. VII. 1995, M. Uchida ; 1♂1♀, 21. VIII. 1995, M. Uchida.

城峯神社境内の、おもに雑木林下草から得られた。本種はトガリバガガンボモドキと同様にブナ帯に生息しているガガンボモドキであると思われる。筆者の採集経験からは、トガリバガガンボモドキが関東地方北部(埼玉県を含めて)の山地帯では比較的普通であるのに比べて、本種は個体数が少ないように思われる。

なお埼玉県からは牧林(1998)に未収録の種として、クロヒメガガンボモドキが皆野町から記録されていて(皆野町誌編集委員会,1982)、ツマグロヒメガガンボモドキが大滝村から記録されている(牧林,1996)。

引用文献

牧林功 (1996) シリアゲムシ目・アミメカゲロウ目。さいたまレッドデータブック 埼玉県希少野生生物調査報告書 動物編。pp.177-182. 埼玉県。

牧林功 (1998) 埼玉県のシリアゲムシ目。埼玉県昆虫誌 I. pp.273-276.

皆野町誌編集委員会 (1982) 皆野町誌自然編 III 動物。398pp. 皆野町。

(うちだ まさよし 〒369-1202 大里郡寄居町桜沢1505)

埼玉県で43年ぶりに記録された オオヨツボシゴミムシ

豊田 浩二

ヨツボシゴミムシ類は湿地や河川敷の草地、広葉樹の林床などに生息する歩行虫の仲間である。本邦産の多くの種には上翅に黄色～橙色の4つ星紋があり、いずれも美麗種ぞろいで人気の高いグループでもある。

埼玉県内では7種のヨツボシゴミムシ類が記録されており、関東地方の他の都県と比較して最も種数の多い県となっている。ヨツボシゴミムシ類にとっての好生息地が数多く存在する証拠であろう。またこれだけの種類が発見できているということは、生息種の確認調査精度はかなり高いものである事が解る。しかしながら *Panagaeus japonicus* ヨツボシゴミムシ以外の種はデータが少なく、種類ごとの分布調査は足踏み状態である。ヨツボシゴミムシ類が見られる平地の湿地や河川敷、その周辺の雑木林等は近年急激な勢いで開発されており、このまま多くの生息地が日の目を見ずに消えて行くのかと思うと悔しい思いである。

筆者はこの度、県内での確実な記録としては43年ぶり、3例目となる *Dischissus mirandus* BATES オオヨツボシゴミムシの標本を得ることが出来たので報告する。

1♀, 17.XI.1998, 埼玉県嵐山町杉山, 小林峰久採集, 筆者保管 (図)。



図. 嵐山町杉山で得られたオオヨツボシゴミムシのメス

この個体は杉山地区にある嵐山町役場庁舎内1階の床を這っていたもので、同町収入役の小林峰久氏により採集され筆者が譲り受けたものである。氏は筆者の虫好きをいつも気にかけて下さり、凡人ならば踏みつぶすかも知れぬこの虫を「田圃でも見たことがないから珍しい虫かもしれない」と採っておいでくれたのである。連絡を受け出向いたところ、思いもよらず本種が待ちうけており思わず絶叫してしまった。

県内での最初の記録は、梶村(1955)の戸田市と浦和市田島ヶ原においてのもので、これが唯一となっていた。利根川や荒川流域の他の地域でも記録されていない標本が得られている可能性はあるが、いずれにしても県内ではアカガネオサムシに匹敵する珍品であろう。近隣の東京都や神奈川県でも本種の記録はわずかなものである。大型で目立つ色彩の虫であるにも関わらずあまり記録されないのは、生息地そのものが元々少ない、もしくは開発等で消滅したからなのではないだろうか。現在、関東の産地としては栃木県や茨城県に確実な場所がいくつかあり、特に栃木県藤岡町の渡良瀬遊水池周辺では個体数も多い。こうした場所は林に囲まれた湿地環境である場合がほとんどで、朽ち木の中からアカガネオサムシ、チビアオゴミムシなどの種類と共に越冬個体が見られる。埼玉県内で前述のような種類がまとまって見られる良好な環境は筆者の見限りではひとつも無い。しかし、戸田市や浦和市の荒川河川敷では現在では想像もつかぬような好湿地性の種類が多く記録されており、戦後間もない時期この付近にはすばらしい湿地環境が存在したことは確かである。また、本種の好む環境は湿地に限定されるものでも無いようで、神奈川県三浦半島では照葉樹林の林縁で得られている例もある。

嵐山町杉山の庁舎付近には南側と北側にそれぞれ谷が入り込み、南側の谷には湿地が存在する。恐らくこの湿地周辺が本来の生息地と思われるが、あるいは周囲の林に生息している可能性もある。なお庁舎周辺は粕川と市ノ川が合流する地域で水辺環境としては昔から良好であったようである。大河川の流域ではなく小さな谷津から得られたことが意外ではあるが、今後もこうした環境を調査すれば新たな産地が見つかるかも知れない。

末筆ながら、貴重な標本及び情報を提供頂いた嵐山町の小林峰久氏及び嵐山町役場会計課の皆様、また本種に関する情報をお寄せいただいた東京農業大学昆虫学研究室の岡島秀治、神奈川県横須賀市の川島逸郎の両氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 梶村秀樹, 1955. 浦和附近産オサムシ類. 付埼玉県内産オサムシ類資料. *Argynnis*, 5(1): 1-20.
吉越 肇, 1998. 埼玉県の鞘翅目(オサムシ科). 埼玉県昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会.
pp. 102-131.

県内におけるツマグロカミキリモドキの採集例

豊田 浩二

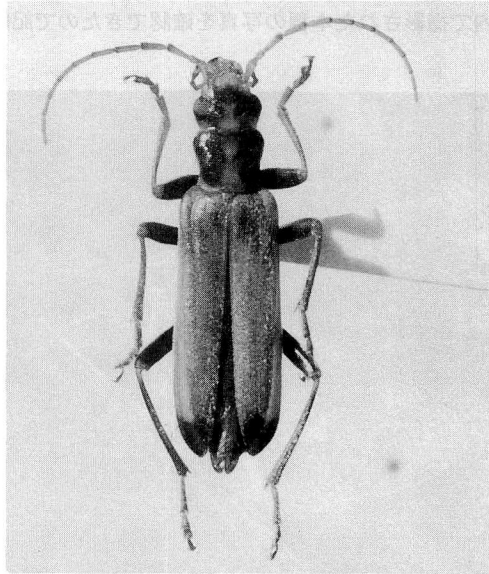
埼玉県内での *Nacerderdes melanura* (LINNE) ツマグロカミキリモドキの記録は、県東端部付近の八潮市での例が知られるのみである。この種は本来海岸地帯に多く(宮武, 1985) 内陸部で得られることは極めてまれのようなのである。筆者は今回、日高市で得られた本種の標本を検査する機会を得たので、内陸部での採集例として報告する。

1♂, 28. V. 1998, 埼玉県日高市高萩 (JR川越線武蔵高萩駅にて), 新井志保採集, 保管 (図)。

採集者が駅で列車に乗りこんだところ、この列車の中で自分の方に向かって飛んでくる虫が目につき、思わず採集したとのことである。電車で飛来したものが運ばれてきたのであろうが、この列車は高麗川駅発であったことから日高市のどこかの地で発生している可能性が高い。

八潮市史の本種に関する記述では、同市内では“比較的多くみられる”とあるが、具体的なデータは示されていないことから、どのような環境下に生息するのか判断できない。よって、県内の発生地の詳細は未だ不明瞭なままである。

ちなみにこの個体は頭部及び前胸部の黒色紋が大きく発達しており、図鑑で図示されている



標本個体とはだいぶ雰囲気異なるが、上翅の4条の縦隆線により容易に *Nacerderdes* 属の種と識別できる(この属で本邦産の既知種は本種のみ)。

末筆ながら貴重な標本を検査する機会をいただき情報を御寄せ頂いた東京農業大学昆虫学研究室の新井志保氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献

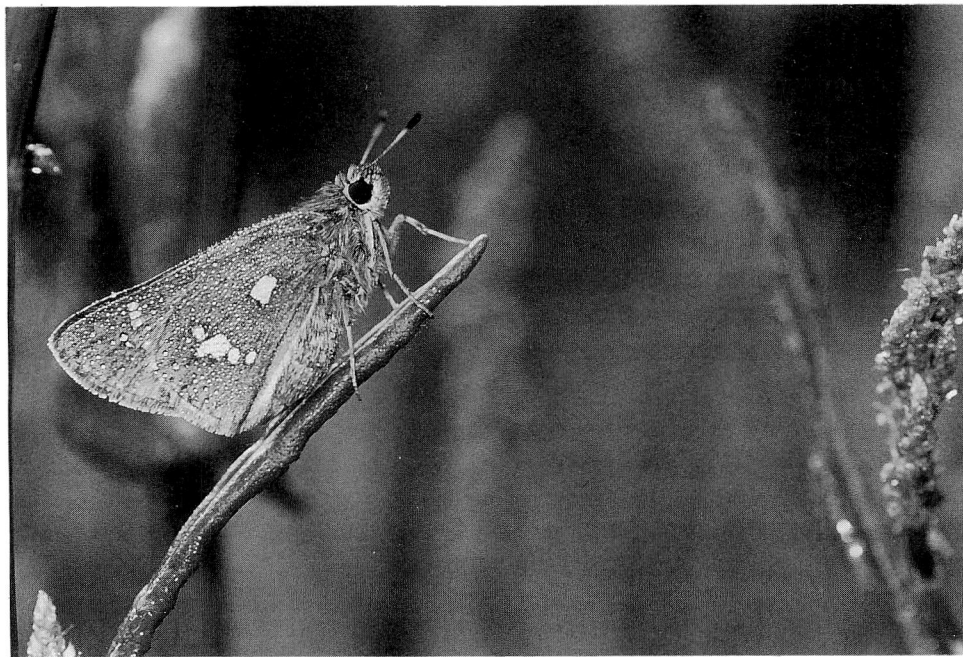
- 宮武陸夫, 1985. カミキリモドキ科. 原色日本甲虫図鑑(III), 保育社. pp. 401-408.
 矢島民夫, 1986. 甲虫類(鞘翅目). 八潮市史自然編. 八潮市. pp. 221-225.
 藤田文雄, 1996. 埼玉県産カミキリモドキ科既知種目録. 寄せ蛾記, (78): 2037-2040.
 小田 博, 1998. 埼玉県の鞘翅目(カミキリモドキ科). 埼玉県昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会. pp. 246-248.

嵐山町でのミヤマチャバネセセリの記録

豊田 浩二

Pelopidas mathias oberthueri EVANS ミヤマチャバネセセリは主に平野部で局所的に見られる種である。1978年に発行された埼玉県動物誌では『低地では浦和・与野・大宮・北本、それに比企丘陵の吉見・小川など、低山地では秩父市・宝登山、山地帯では三峰山・大若沢・孫四郎峠の各地に確実な記録がある。』とされ、この時点ですでに稀種である事がうかがえる。また近年においては多くの地域で記録できなくなっている種である。

嵐山町での本種の記録はこれまで無いようであるが、今回嵐山町在住の杉田正之氏のご厚意により町内で撮影された本種の写真を確認できたので記録する。



ミヤマチャバネセセリ (1990年 4月、嵐山町大字菅谷の菅谷館跡にて杉田正之撮影)

末筆ながら、貴重な記録をお教えいただき写真の公表を快諾された嵐山町の杉田正之氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

市川和夫・原 聖樹, 1978. 埼玉県の蝶類. 埼玉県動物誌, 埼玉県教育委員会. pp. 259-298.

埼玉県内でのアリノスアブ類の蛹採集例

豊田 浩二

アリノスアブの仲間は成虫以外のステージをアリの巣内で過ごすことが知られ、幼虫の容姿は一見昆虫とは思えないほどの変わったものである。蛹についても同様の格好をしており、非常に面白いものである。筆者は好蟻性甲虫類を採集の際にアリノスアブ類の蛹をいくつか採集しているので報告する。

Microdon japonicus YANO アリノスアブは、アリノスアブ類の中では比較的普通に見られる種類で丘陵地から山地にかけて多く、県内でも多数の記録がある。この種の成虫意外の生活場所はトビロケアリなどの巢中である。図に示したのは、1997年6月に筆者が荒川村川浦溪谷の標高750m付近にて、好蟻性の甲虫類を採集した際にトビロケアリの巣内に見出したものである。これが巣内のやや広い部屋にドンと居座っていた。見つけたときは全く何だかわからず、ただ面白いのでフィルムケースに入れて持って帰ってきた。もしやこれが最近良く耳にするアリノスアブではないか、寄居町の原勝司氏におたずねしたところ、やはりアリノスアブ類の蛹であるとの事であった。翌年同じ巣で幼虫らしきものを見つけたのだが、ほぼ同じ格好ではあるが角(?)が無くて柔らかく、結構早く動き回るのが特徴的であった。クリーム色地に褐色の網目模様で、ナメクジか何かが言う様に良く似ている。

『日本動物大百科』によれば、蛹の角のようなものは呼吸管であり、本来なら2、3週間で羽化するらしいのだが、結局1年待っても何も出てこなかった。2年待っても何も出てこないのもこれは死んだのだと思い(もっと早く気がつくべきであった)、殻を割ってみたところ、中からねじまがったアリノスアブの成虫が死骸となって出てきた。おかげで種の同定はできたが非常に残念であった。どうやら乾燥しすぎたのが原因のようであった。ちなみに蛹の中に納まった成虫の向きは、2個体とも角のあるほうに頭が位置していた。

1999年5月、東秩父村の白石峠にて再びこの奇怪な物体に遭遇する機会に恵まれた。クロヤマアリの巢中に角の小さい蛹が多数と若干の幼虫が見受けられたため、急いで密閉容器を取りに帰り、その後10個体以上の蛹を採集した。外気に触れると途端に表面が乾燥し始めたため、急いで容器に放り込んだ。また非常に潰れやすく、いくつかの蛹は体液が漏れてしまい、結局無事に持ちかえることができたのは7個体であった。原氏によれば、クロヤマアリに見られるのは *M. auricomus nigripes* SHIRAKI キンアリノスアブであるとの事であった。

この蛹は途中カビにやられて2個体が死亡したものの、5月14日から17日の間にたてつづけに羽化し、先に脱出していたオス個体が羽化後まもない翅の伸びきらないメスと交尾する場面も見られた。翅を伸ばすのは高いところで行われるようで、ガラス容器の壁面でじっとしているのが観察されたが、交尾中のメスは翅を伸ばすことができず、飛ぶことのできない哀れな姿となった。野外ではどのような場所で羽化するのか、興味のあるところである。なお、採集データは以下の通りで

ある。

1. *Microdon japonicus* YANO アリノスアブ

2頭, 15.VI.1997, 荒川村川浦溪谷(大血川)標高750m付近にて, 林道脇の石下に形成された *Lasius niger* トビイロケアリの巢中より筆者採集・保管。

採集例ではないが, 以下の通り観察しているので記録しておく。

1頭(脱出殻, 図3), 5.VI.1999, 名栗村蕨山標高900m付近, 道脇の石下に形成されたトビイロケアリの巢中にて撮影。

2. *M. auricomus nigripes* SHIRAKI キンアリノスアブ

7頭, 5.V.1999, 東秩父村白石峠槻川源流の標高800m付近にて, 林道脇の石下に形成された *Formicajaponica* クロヤマアリの巢中より筆者採集。うち3♂♂2♀♀が脱出羽化, 筆者保管。

未筆ながら, 色々ご教示いただいた寄居町の原勝司氏に御礼申し上げます。

【参考文献】

酒井春彦, 1997. アリノスアブの生活史. 日本動物大百科9, 昆虫II. pp.132-133. 平凡社.

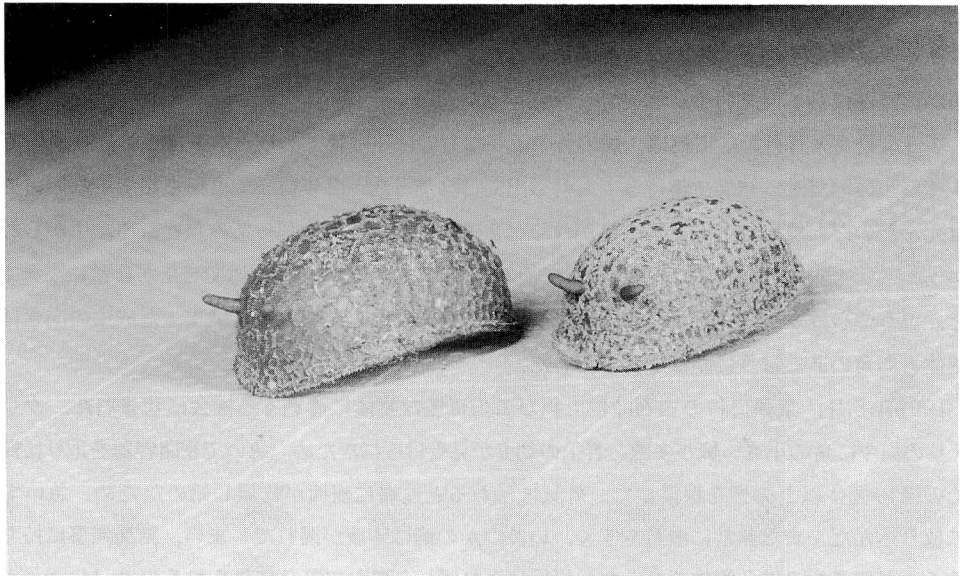


図1. 川浦溪谷で採集したアリノスアブの蛹



図2. 交尾するキンアリノスアブのオスと羽化直後のメス



図3. 脱出後のアリノスアブの蛹

ヨコジマナガハナアブの採集例

豊田 浩二

Temnostoma vespiforme (LINNAEUS) ヨコジマナガハナアブは、その学名が示す通りスズメバチそっくりの外見をした、巨大なハナアブの一種である。

埼玉県内における本種のこれまでの記録は、大滝村大血川沿いにある東京大学演習林の矢竹沢で内田正吉氏により採集された1♀が県内初記録として報告されている(玉木, 1997)が、その後新たに追加された様子は無い様である。筆者は次の通り本種を採集しているの、県内では数少ない例として報告する。

1♂, 30.V.1999, 秩父郡大滝村中津川溪谷相原沢(標高700m付近), 筆者採集, 保管(図)。



本種が得られたのは相原沢沿いに走る遊歩道で、沢と道が接触する所にて林内の日溜りをスズメバチのようにゆっくり飛んでいるところを採集した。筆者はこのときスズメバチを採集したつもりであり、頭部の形状を見てあっけにとられてしまった。腹部のボリュームと色彩は特に良く似ており、まさに「スズメバチ型の」ハナアブと言った感じである。採集地点の近くには野鳥観察用のあずま家があり、ここには本当のスズメバチも巣を作りに来ていた。本種の外見も去る事ながら、飛び方までもが大変良く似ているとあらば、こうしたスズメバチに紛れて飛んでいる分には、恐らく区別がつかないであろう。

引用文献

玉木長寿, 1997. 埼玉県の双翅類. 埼玉県昆虫誌 II. pp.1-405 (p.109).

寄せ蛾記86号に掲載された報文の訂正

豊田 浩二

筆者が寄せ蛾記86号に投稿した報文にいくつか誤りがあったので、下記のように訂正させていただく。原因は打ちっぱなしでしばらくおいてあった原稿を、筆者が良く確認もしないで投稿してしまったためである。今後はこうしたミスをしないうよう、十分注意したいとおもう。

○『埼玉県でニッコウオオズナガゴミムシを採集』の内容訂正

以下に訂正2ヶ所の詳細を示す。

- ・2437頁 1行目 誤：*Pterostichus macurogenis*
正：*Pterostichus macrogenys*
- ・2438頁 7行目 誤：ウスバサイシン、
正：フタバアオイ、

フタバアオイは徳川家の葵の紋所で超・有名な野草である。一般常識的なことかも知れぬが、筆者はこの草を最近までずっとヒメギフの餌と勘違いしていた。(飼育できないことも無いかもしれぬが)

○『大宮市にてクロコノマチョウを採集』の内容訂正

以下に訂正1ヶ所の詳細を示す。

- ・2438頁 下から3行目 誤：1頭, 1994, 大宮市
正：1頭, 31-X-1994, 大宮市

良くやるミスであるが、日にちの入っていない記録をそのまま出すとはとんだお間抜けである。単報では記録が最も重要な個所であるのにもかかわらず、それが不完全とは、事は重大である。以後しっかり確認するようにしたい。

○『埼玉県における甲虫類の記録 1994~'96』の内容訂正

以下に訂正8ヶ所の詳細を示す。

- ・2440頁 17行目 誤：県内の記録は山岳地帯に集中している。
正：県内では初記録と思われる。
- ・2441頁 19行目 誤：*Perileptus japonicus*
正：*Perileptus japonicus* (イタリック)
- ・2442頁 18,19行目 誤：1♂., 両神村両神山日向大谷(700m alt.), 7.VII.1996.
正：上記の記録は県初記録種のブリットンヒメナガゴミムシ
Pterostichus brittoni HABU として訂正する。
- ・2444頁 下から2行目 誤：*C. circumdatus*
正：*Chlaenius circumdatus* (属名を略さない)
- ・2449頁 下から5行目 誤：メダカヒシベニボタル
正：ヒシベニボタル (学名はそのまま)

- ・ 2450頁 下から7行目 誤：ヒゲナガヒメヒラタムシ *Dendrophagus longicrnis* REITTER
正：*Dendrophagus* sp. (未記載種と思われる)
- ・ 2456頁 17.18行目 誤：*B. p. regalis* 及び *B. subauratus*
正：*B. p. regalis* 及び *B. subauratus* (イタリック)
- ・ 2459頁 図8 誤：ヒメヒガナガヒラタムシ (本来はヒゲナガヒメ)
正：*Dendrophagus* sp.

以上が訂正すべき個所である。他にも若干の誤り（フォントの変換ミス）が見受けられるが、これは筆者の責任ではないし内容には関係ないので無視する。

県初記録種のブリットンヒメナガゴミムシについては現在、県内各地の標本データを取りまとめ中である。山地のガレ場を好む種でタカオヒメナガゴミムシに酷似するが、オス交尾器の先端部の形状により容易に識別できる。タカオヒメナガゴミムシとの混生地は現在のところ確認できていない。生息環境の違いにより棲み分けているものと推測する。

ヒゲナガヒメヒラタムシの近似種については尾崎氏よりご指摘を受けたものであるが、氏は標本写真を見てすぐに別種であると気がつかれたようである。ヒゲナガヒメヒラタムシは触角が体長より短いとのことだが、筆者が採集したものは明らかに体長より長い。触角の長さの違いは雌雄の性差かなにかであると思っていたのだが、とんだ見当違いであったようだ。今後研究用の追加個体を得ると共に、生態についても観察して行きたいと思う。

末筆ながら、読者の皆様にはたいへんご迷惑をおかけした。この場をかりてお詫び申し上げる。また、訂正に当たり色々ご教示頂いた秋田県大館市の尾崎俊寛、埼玉県富士見市の小田博、文京区の難倉正人、品川区の森田誠司の各氏に厚く御礼申し上げます。

(とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷686)

北本自然学習公園でクマゼミ鳴く

牧 林 功

1999年 8月 3日 10時前後、北本市荒井の北本自然学習公園ふれあい橋脇の木立で、クマゼミ盛んに鳴いていたので記録しておく。

(まきばやし いさお 〒330-0834 大宮市天沼町2-864)

ウスバキトンボの早い記録

鈴 木 幸

1999年 5月 30日、与野市内でウスバキトンボ 1♀の新鮮個体を採集した。本種の早い時期の記録と思われるので報告する。この数日前の強風で運ばれてきた可能性もあると思われる。

(すずき みゆき 〒333-0801 川口市東川口5-6-24-306)

埼玉県浦和市においてクロスジホソサジヨコバイを採集

林 正美・新島 大明

クロスジホソサジヨコバイ *Sophonia orientalis* (MATSUMURA) はホソサジヨコバイ亜科 *Nirvaninae* に属す種で、本州、屋久島、琉球列島から記録されているが、東日本では確認されていなかった。ところが、1999年4月17日に埼玉県浦和市下大久保（埼玉大学構内）において本種の1♀を採集したので報告する。これは埼玉県から初めての記録である。

なお、埼玉大学の当研究室には他に、東京都大田区、神奈川県鎌倉市と茅ヶ崎市で採集された標本が保存されているので、ここで合わせて記録する。

(はやし まさみ・にいじま ひろあき；埼玉大学教育学部生物学研究室)

川越市でクツワムシを採集

柴田 直之

筆者は、近年県内で激減しているというクツワムシを1998年に川越市内で採集しているので報告する。

クツワムシ *Mecopoda niponensis* (de HAAN)

1♂ 埼玉県川越市下赤坂（メッシュコード：5339-6328）1998年9月6日
また、採集した個体のほか、付近で他に2頭ほどの鳴き声を確認している。

(しばた なおゆき 〒350-1147 川越市諏訪町18-8)

「県の蝶・ミドリシジミを見る集い」

'99開催状況について

1999年6月26日（土）、16:00～18:00に浦和市の秋ヶ瀬公園（ピクニックの森周辺）で、埼玉県自然保護課と当会の共催によって開催されました。梅雨の合間、今までの雨の連日が一変。昼間は雲の合間から強い陽が射し込む、雨の無い一日でした。

桜田さんの司会で始まり、牧林会長、平塚専門調査員（県自然保護課）のあいさつ、巢瀬さんの観察法と日程説明後、公園内を観察（会員が説明）。萩原さんの観察のまとめ、質疑応答後終了。終了時刻はおおよそ18時10分でした。

参加者は、一般参加者42名（内高校生以下15名）、昆虫談話会関係者19名、県自然保護課関係者2名。なお、一般参加者は埼玉県庁広報誌「彩の国だより」での募集であり、自然保護課に届いた事前参加予定者は67名でした。

当会参加者は以下のとおり（会員、会員関係者、合計19名）。利根川雅美、巢瀬司、江村薫、阿部功、竹内崇夫、渡辺光行、天野来人、天野房江、萩原昇、鷲尾洋一、桜田敦、斉藤悟、玉川守雄、牧林功、牧林和子、ダイ・テイ・ガミー〔ベトナム〕、小堀文彦、柴田直之、矢野高広。会員はやや早めに集合し、会場設定、事前調査を実施。一番乗りは利根川さんの14時30分。

(文責：江村 薫)

寄せ蛾記 92号 目次

	土屋義彦埼玉県知事さまへ (牧林 功)	2727-2728
松木和雄・喜多英人	埼玉県都幾川村産ホンサナエ幼虫の 背棘・側棘数の変異について	2729-2732
雛倉 正人	大滝村雁坂峠とその周辺の甲虫類 (第1報)	2733-2752
雛倉 正人	両神村で採集されたミヤマフトヒラタコメ ツキとフチヘリジョウカイ	2753
雛倉 正人	ムナクボナガクチキの埼玉県における過去の 採集例について	2754
加門 昭徳	戸田市でヒラタクワガタを採集	2754
内田 正吉	江南町の追加すべき直翅類	2755
和田 一郎	北足立郡吹上町の直翅類	2756
内田 正吉	飯能市から得られた若干のアリ	2757-2758
内田 正吉	埼玉県におけるキアシガガンボモドキの採集 記録	2758
豊田 浩三	埼玉県で43年ぶりに記録されたオオヨツボシ ゴミムシ	2759-2760
豊田 浩三	県内におけるツマグロカミキリモドキの採集例	2761
豊田 浩三	嵐山町でのミヤマチャバネセセリの記録	2762
豊田 浩三	埼玉県内でのアリノスアブ類の蛹採集例	2763-2765
豊田 浩三	ヨコジマナガハナアブの採集例	2766
豊田 浩三	寄せ蛾記86号に掲載された報文の訂正	2767-2768
牧林 功	北本市自然学習公園でクマゼミ鳴く	2768
鈴木 幸	ウスバキトンボの早い記録	2768
林正美・新島大明	埼玉県浦和市においてクロスジホソサ ジヨコバイを採集	2769
柴田 直之	川越市でクツワムシを採集	2769
	「県の蝶・ミドリシジミを見る集い」'99 開催状況について (江村 薫)	2769
	諸連絡	2770